PENTAX®

使用説明書

MZ-S QUARTZ DATE

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

PENTAX® MZ-S QUARTZ DATE 使用説明書

はじめに

このたびは、ペンタックスカメラMZ-Sをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を充分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また、本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。
この説明書で使用している作例写真は、必ずしもこのカメラで撮影したものではありません。

本機の特徴について

MZ-Sには、以下のような特徴があります。

- マグネシウム合金により堅牢性を高めたボディー
- 6点測距のSAFOX Ⅶを搭載。ファインダー内にある6点の測距点で、撮りたいものが中央になくても自動でピントを調整。また、任意の位置で測距点を固定して撮影可能
- 最高速1/6000秒シャッター速度の搭載
- 1コマごとの撮影データ(シャッター速度、絞り値など)をフィルムに印字可能
- カメラ上部を傾斜させたことにより視認性と操作性の向上

カメラを安全にお使いいただくために

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠注意 このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

禁止事項を表すマークです。

注意を促すためのマークです。

⚠警告

- カメラを分解しないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特に、レンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一、電池を飲みこんだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠注意

- 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。その際は、やけどに充分ご注意ください。

取り扱い上の注意

◎ 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。

◎ 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。

◎ 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。

◎ このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。

◎ 強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動は、クッションなどを入れて保護してください。

◎ 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。

◎ 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。

◎ レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。

◎ マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがありますが、撮影した写真には影響ありません。

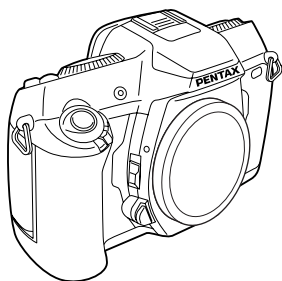
◎ 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

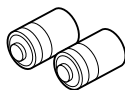
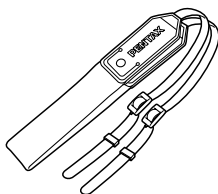
◎ 長期間使用しなかったときや、大切な撮影(結婚式、旅行など)の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。

◎ 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。

◎ カメラの使用温度範囲は-10°C～50°Cです。

◎ ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。

主な付属品の確認

本体

ファインダーキャップ

電池

ストラップ

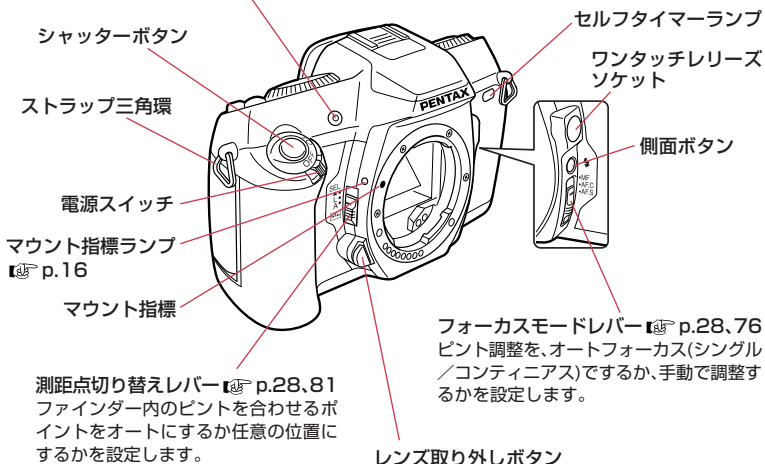
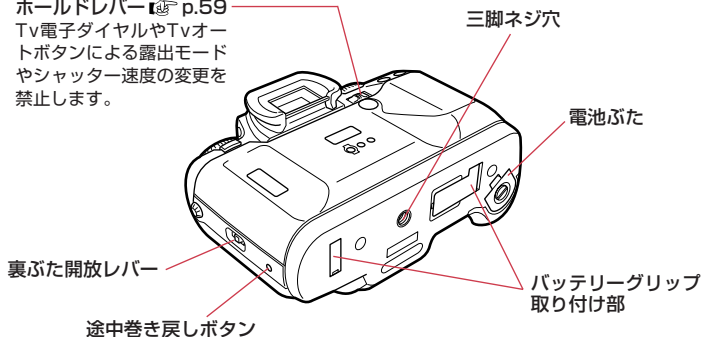
・使用説明書（本書）

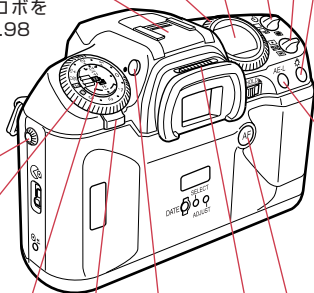
・保証書

・ペンタックスファンクションカード

目次

各部の名称

Tvオートボタン
露出モードのプログラム、絞り優先への復帰（☞ p.58）、
フィルム感度の読み込み、100への復帰（☞ p.39）、
ペンタックスファンクションの初期状態への復帰（☞ p.115）
シャッターボタン
セルフタイマーランプ
ワンタッチレリーズ
ソケット
ストラップ三角環
側面ボタン
電源スイッチ
マウント指標ランプ
☞ p.16
マウント指標
フォーカスモードレバー ☞ p.28、76
ピント調整を、オートフォーカス(シングル
／コンティニアス)でするか、手動で調整す
るかを設定します。
測距点切り替えレバー ☞ p.28、81
ファインダー内のピントを合わせるポ
イントをオートにするか任意の位置に
するかを設定します。
レンズ取り外しボタン
PENTAX
OFF
SEL
L
A
•MF
•AF.C
•AF.S

ホールドレバー ☞ p.59
Tv電子ダイヤルやTvオー
トボタンによる露出モード
やシャッター速度の変更を
禁止します。
三脚ネジ穴
電池ぶた
裏ぶた開放レバー
途中巻き戻しボタン
バッテリーグリップ
取り付け部

ドライブレバー
ドライブモードを1コマ撮影(☞ p.26)、連続撮影(☞ p.50)、多重露出撮影(☞ p.51)、セルフタイマー撮影(☞ p.53)で切り替えます。

ストロボボタン☞ p.32、90
内蔵ストロボを上に上げて発光できる状態にします。

本書の使いかた

本書の構成について

本書の構成は以下のようになっています。

◆確認事項

「準備しましょう」の前に、使用上の注意事項や付属品の一覧、各部の名称について説明しています。ご使用の前にお読みください。

◆準備しましょう

ご購入後、写真を撮るまでの準備として必要な操作について説明しています。また、フィルムをセットする操作について説明しています。

◆基本的な操作をマスターする

- **一番簡単に写真を撮る**
- **内蔵ストロボについて**
- **フィルムの巻き戻しと設定について**
- **電池の交換について**

◆機能をフルに活用する

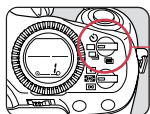
本機の機能を、充分にご活用していただくための各機能の詳細について説明しています。

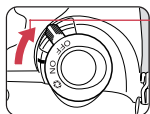
- **いろいろな撮影方法について**…連続撮影、多重露出撮影、セルフタイマー撮影、オートブラケット撮影
- **露出設定について**…自動露出モード（プログラム/シャッター優先/絞り優先）の設定やマニュアルでの設定、バルブ撮影、露出補正の設定、AEロック
- **測光方式を設定する**…6分割測光、中央重点測光、スポット測光
- **ピント調整について**…フォーカスモードの設定、測距点の設定、手動でピントを調整
- **被写界深度について**…被写界深度をファインダーで確認する方法や、ピント位置と絞りの関係について説明しています。

◆ストロボを使用して撮影する

- **内蔵ストロボの使用について**…内蔵ストロボを使用するときの発光モードの設定と、内蔵ストロボについて知っておきたい事項について説明しています。
- **外付けストロボの使用について**…別売りの外付けストロボの使用方法や、AF360FGZを使用してのハイスピードシンクロやワイヤレスモードについて説明しています。

本書の説明について

本書では、カメラやファインダー内の操作のしかたを以下のように説明しています。

丸付きマーク

丸付きで表示されている位置に合わせます。

矢印

ボタンやレバーを矢印方向に押したり回します。

ファインダー内の表示

ファインダーに表示されている状態を絵で説明しています。

＊ファインダー内の説明では、実際にファインダー内をのぞいた状態に対して、撮影情報を表示するエリアやバーグラフの表示を大きくして説明しています。実際の表示状態とは異なりますので、ご注意ください。

電子ダイヤルディスプレーの表示状態

参考

操作説明に関連して知っておいて参考になる事項について説明しています。

メモ

操作手順に関連して知っておきたい事項について説明しています。

SET UP
セットアップ

準備しましょう

写真を撮る準備

ご購入後、写真を撮るまでの準備操作について説明しています。

Step 1 ストラップを取り付ける

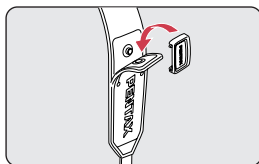
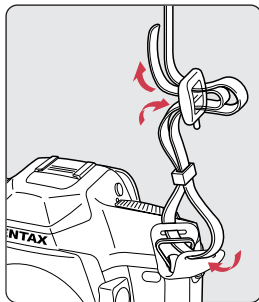
1 **ストラップの先端を保護シートとストラップ三角環に通し、留め具の内側で固定します。**

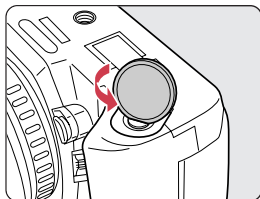
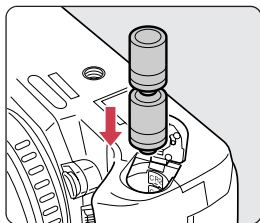
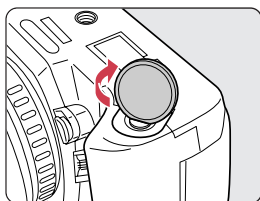
メモ

ストラップの留め具は、フィルムの途中巻戻しや日付や時刻の修正に使用します。留め具の位置はカメラからある程度離して取り付けてください。

2 **もう一方のストラップ三角環に同様の操作で、ストラップを取り付けます。**

参考 **ストラップのポケット利用方法**

ストラップには、ポケットが付いています。このポケットには、ファインダーキャップ、ワンタッチレリーズソケットキャップ、ホットシューカバーなどの小物を入れておくと便利です。

Step2 電池をセットする

1 本体底部の電池ぶたを、図のようにコインなどで左に回して開けます。

2 付属の「リチウム電池CR2」2本を、図のようにプラス（凸）を下にして入れます。

3 電池ぶたをしっかり押さえ、図のようにコインなどで右に回して閉じます。

メモ 電池について

- 電池は、必ず付属のリチウム電池「CR2」同等品を使用してください。
- 単3形電池を使用するときは、別売りの「バッテリーグリップBG-10」があります。
- 海外旅行や寒冷地での撮影には、予備の電池をご用意ください。
- 電池の交換と使用上の注意については、「電池の交換について」(☞ p.42)を参照してください。

Step3 レンズを取り付ける

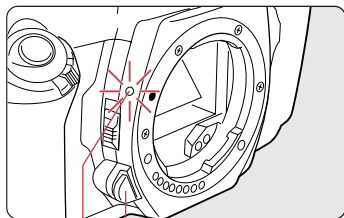
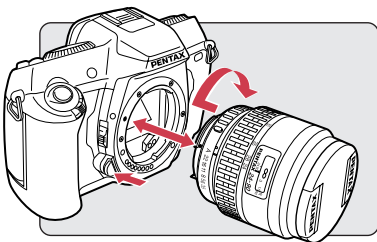
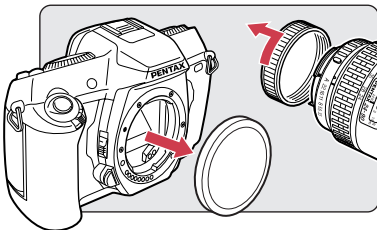
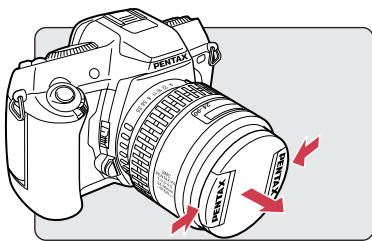
1 **カメラとレンズに付属しているカバーを外します。**

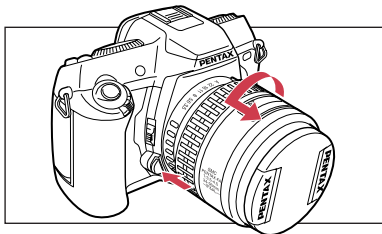
参考

カメラのカバーは、工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。保管用には、別売りの「ボディーマウントキャップK」が用意されています。

2 **カメラとレンズのマウント指標を合わせてレンズをはめ込み、レンズを「カチッ」と音がするまで右に回します。**

メモ

- レンズ取り付け後、レンズを左に回して、確実にロックされていることを確認してください。
- 暗いところでレンズを取り付けるときには、電源ONにしてレンズ取り外しボタンを押すと、マウント指標ランプが点灯してセット位置を確認できます。
- カメラの電源がONの状態で、一部旧タイプのボディーマウントキャップKをカメラに装着すると、マウント指標ランプが点灯したままになります。

3 レンズキャップを図のようにして取り外します。

メモ レンズの取り扱いについて

• レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを左に回します。

• 他社製レンズを本製品に使用することによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。

• カメラやレンズのマウント面に、ゴミや汚れが付いたり腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときには、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

Step4 日付や時刻を写し込む

写真に撮影した日付や時刻を写し込むかどうかを設定します。

1 カメラ背面のDATEボタンを押し、写し込むデータ形式を設定します。

DATEボタンを押すと、以下の順番で表示されます。

＊ 以下の表示は、2001年5月1日午後2時10分を例にしています。
記号は「YY:西暦下2桁」「MM:月」「DD:日」「hh:時」「mm:分」をあらわしています。

[YY MM DD]→[０１　５　１](国内用)

[DD hh mm]→[１　１４：１０]

[-- -- --]→日付や時刻を写し込まない

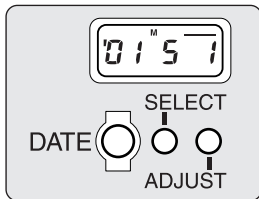
[MM DD YY]→[５　１　０１](米国用)

[DD MM YY]→[１　５　０１](欧州用)

メモ 日付や時刻の写し込み

日付や時刻は、画面右下に写し込まれます。この部分に白や黄色のものがあると、写し込まれた文字が見えにくくなります。

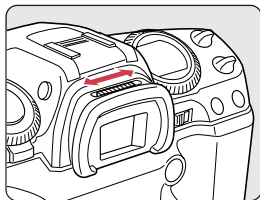
参考

- 日付や時刻を修正するときは「日付時刻を修正する」(☞p.46)を参照してください。
- 日付や時刻の写し込みが薄くなった場合やカメラ側の表示が薄くなったり消えた場合には、電池の交換が必要です(☞p.44)。
- 多重露出の場合、1枚目のデータが写し込まれます。

Step5 ファインダーの視度を調整する

ファインダーを視力に合わせて調整します。

1 カメラを明るいほうへ向け、視度調整レバーを左右に動かして、ファインダー内のオートフォーカスフレームの線が最もはっきり見える位置に調整します。

メモ

視度の調整範囲は、$-2.5m^{-1}$～$+1.5^{-1}$(毎メートル)です。

Step6 フィルムをセットする

このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。
ISO25〜5000までのフィルムが使用できます。

メモ

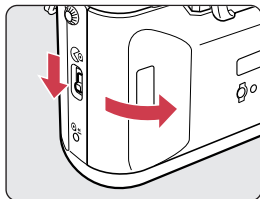
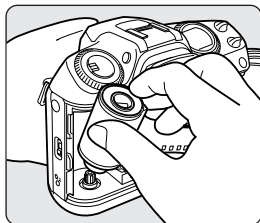
カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習することをお勧めします。

参考

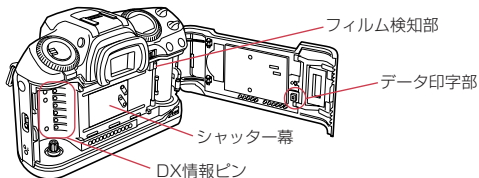
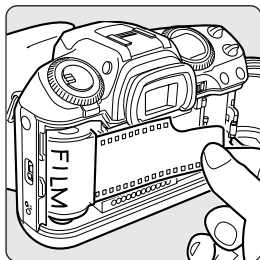
- フィルム感度を自動的にセットできるのは、DXフィルムです。DXフィルム以外を使用する場合は、フィルム感度を設定して使用してください(☞ p.38)。
- 赤外フィルムは、使用できません。フィルム検知に赤外光を利用しているため、感光の恐れがあります。

1 裏ぶた開放レバーを下にさげ、裏ぶたを開きます。

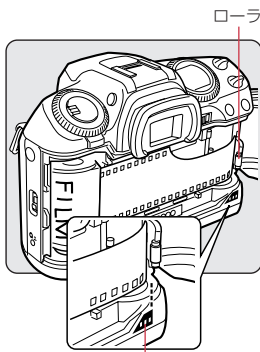
メモ

- ご購入後初めてフィルムを入れるときは、防傷カバーを取り外してください(☞ p.22「防傷カバーを取り外す」)
- フィルムを入れるときは、直射日光が当らないところで行ってください。

2 レンズ部分を左手でしっかり持ち、フィルムの凸部分を下にしてカメラの白い突起にしっかりと差し込みます。次にフィルムの上側を入れます。

3 左手でレンズを持ったまま、右手でフィルムを引き出します。

★重要★

- シャッター幕は、非常に薄い幕でできており精度の高いものです。指やフィルム先端がシャッター幕に触れないように注意してください。
- フィルム室内のDX情報ピンは、フィルム感度などを読み取る接点です。キズやゴミ、汚れを付けないように注意してください。ゴミや汚れは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。
- フィルム検知部やデータ印字部にゴミなどが付着するとフィルムの巻き上げやデータの印字が正しく行われません。ゴミは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

4 フィルムの先端をカメラのフィルム先端マークの右端に合わせ、必ずローラの下に入れます。

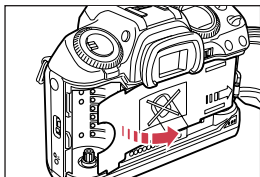
メモ

- フィルム先端マークに合わせ、フィルムがまっすぐに入っていることを確認してください。
- フィルムの先端が曲がっているものは、まっすぐに直してください。また、フィルムにたるみがある場合は、フィルムをパトローネに戻してたるみを取ります。

5 裏ぶたを閉めます。

6 電源スイッチを[ON]位置に合わせます。

フィルムが自動的に1枚目まで進み、電子ダイヤルディスプレーにフィルム枚数とフィルムマークが表示されます。

メモ 防傷カバーを取り外す

ご購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ぶたを開けて防傷カバーを取り外してください。このとき、防傷カバーがシャッター幕に触れないように注意してください。

メモ フィルムが正しく入っていないときには

電子ダイヤルディスプレーにEが点滅します。裏ぶたを開け、フィルムを入れ直してください。

BASIC
ベーシック

基本的な操作をマスターする

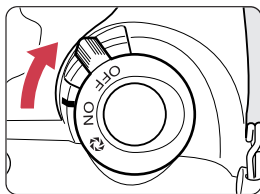
一番簡単に写真を撮る

一番簡単に写真を撮るための設定と、撮影操作について説明します。シャッターボタンを半押しにするだけでピントが自動調整され、露出もカメラが自動的に合わせます。

電源のON/OFF

電源を入れ、電子ダイヤルディスプレーの表示を確認する操作について説明します。

1 電源を入れる

①電源スイッチを[ON]位置に合わせます。

2 電源を切る

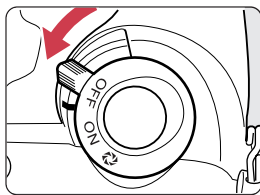
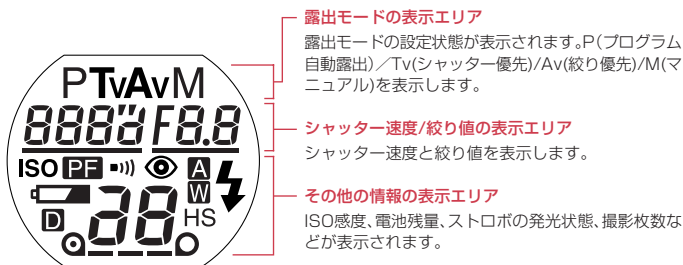
①撮影終了後、電源スイッチを[OFF]位置に合わせます。

必ず電源スイッチをOFFにしてください。電源スイッチがONの状態では、シャッターボタンが押されると電池を消耗します。

メモ 電子ダイヤルディスプレーについて

電子ダイヤルディスプレーには、以下のマークが表示されます。

露出モードの表示エリア
露出モードの設定状態が表示されます。P(プログラム自動露出)／Tv(シャッター優先)/Av(絞り優先)/M(マニュアル)を表示します。

シャッター速度/絞り値の表示エリア
シャッター速度と絞り値を表示します。

その他の情報の表示エリア
ISO感度、電池残量、ストロボの発光状態、撮影枚数などが表示されます。

電子ダイヤルディスプレーに表示されるマークには、以下のような種類があります。

■ **露出モード**

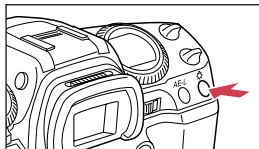
P .... プログラム自動露出 ☞ p.27、60
Tv .... シャッター優先自動露出 ☞ p.62
Av .... 絞り優先自動露出 ☞ p.64
M .... マニュアル露出 ☞ p.65

■ **ストロボの発光状態**

(目のマーク) ...... 赤目軽減機能 ☞ p.92
A .... ストロボ自動発光 ☞ p.92
(稲妻マーク) .... ストロボ情報 ☞ p.92
W .... ワイヤレス発光モード ☞ p.102
HS ..... ハイスピードシンクロモード ☞ p.101

■ **その他の情報**

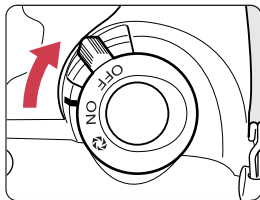
ISO .... フィルム感度設定 ☞ p.38
PF ..... ペンタックスファンクション設定 ☞ p.114
(電子音マーク) .... 電子音 ☞ p.116
(電池マーク) ... 電池消耗 ☞ p.42
D .... 撮影データフィルム印字 ☞ p.39
(フィルムマーク) ... フィルム状態 ☞ p.36

暗いところで電子ダイヤルディスプレーを使用するときは、液晶照明ボタンを押すと、約10秒間、照明を点けることができます。
ＡＦ３６０ＦＧＺ取り付け時は、同時にAF360FGZの表示パネルも照明されます。

一番簡単に写真を撮るための設定

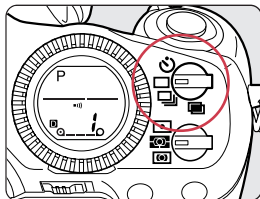
一番簡単に写真を撮るために、1コマ撮影、プログラム自動露出、分割測光、測距点切り替えをオート、オートフォーカスに設定します。

電池やフィルム、レンズなどのセット方法については「準備しましょう」を参照してください。

1 1コマ撮影に設定する

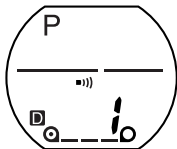
①電源スイッチを[ON]位置に合わせます。

②ドライブレバーを□位置に合わせます。

1コマ撮影では、シャッターボタンを1回押すと、1枚だけ撮影します。

撮影モードには、その他に連続撮影(☞p.50)、セルフタイマー撮影(☞p.53)、多重露出撮影(☞p.51)があります。

2 プログラム自動露出に設定する

①レンズの絞りオートロックボタンを押しながら回し、[A]位置に合わせます。

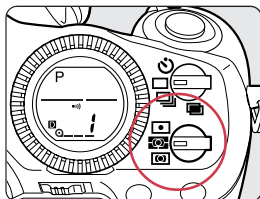
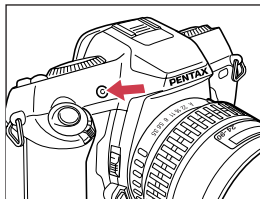
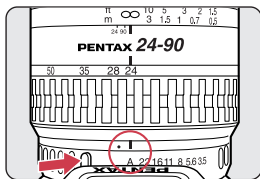
電子ダイヤルディスプレーに[P]が表示され、プログラム自動露出が設定されます。

メモ

電子ダイヤルディスプレーに[P]が表示されていない場合は、Tvオートボタンを押します。

3 測光方式を分割測光に設定する

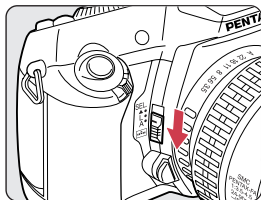
①測光方式レバーを 位置にします。

メモ　**分割測光について**

分割測光に設定すると、画面内を6つに分割して明るさを測定するので、逆光などで人物が暗くなってしまうような条件でも、各分割位置で明るさをカメラが判断し、人物が暗くならないように自動的に補正します。
測光方式には、その他に中央重点測光およびスポット測光があります。☞p.71

4 測距点の選択をオートに設定する

①測距点切り替えレバーを下側にし[A]位置に合わせます。

写したいものが中央になくても、自動的にファインダー内の測距点(6点)の最適な位置でピントが合うように調整します。

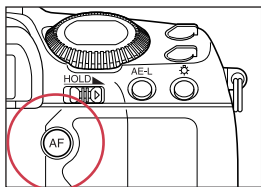
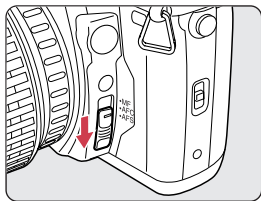
測距点の選択には、その他に6つの測距点から、指定した任意の位置でピントを調整するように設定することができます。☞p.81

5 オートフォーカスに設定する

①フォーカスモードレバーを下側にし[AF.S]位置に合わせます。

AF.S位置にすると、シャッターボタンを半押しにするだけで、自動的にピント合わせを行います。ピントが合うまでシャッターは切れません。また、一度ピントが合うとシャッターボタン半押しの間、ピントは固定されます。

メモ その他のピント調整について

ピント調整には、その他に以下の方法があります。

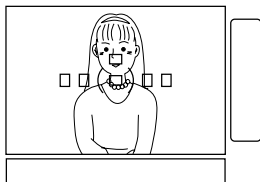
- MF…手動でピントを調整します。☞p.79
- AF.C…被写体にピントを合わせ続けます。☞p.77
- AFボタン…このボタンを押すと、シャッターボタン半押しと同様にピント合わせを行います。シャッターボタンの半押しが苦手な方にお勧めします。

写真を撮る

1コマ撮影、プログラム自動露出、分割測光、測距点選択オート、オートフォーカスに設定後、写真を撮る操作について説明します。

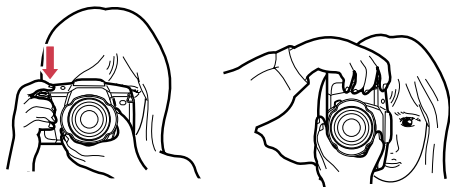
電池やフィルム、レンズなどのセット方法については「準備しましょう」を参照してください。

1 撮るものをファインダーに入れる

①ファインダーをのぞき、撮るものをファインダーに入れます。

ファインダーの6つのAFフレーム□が、自動でピントの合う範囲です。この範囲に、ピントを合わせたい対象を入れるようにしてください。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ **カメラの構えかた**

- 撮影するときは、カメラを両手でしっかりと持ってください。

- 木や建物、テーブルなどを利用して体やカメラを安定させると効果があります。
- 個人差はありますが、一般的に(1/焦点距離)が手持ちの場合の限界シャッター速度とされています。50mmでは1/50秒、100mmでは1/100秒を目安にしてください。これ以下のシャッター速度になる場合は、なるべく三脚をご使用ください。
- 望遠レンズで三脚を使用する場合は、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うことで、カメラのぶれ防止に効果があります。

メモ ズームレンズの使いかた

■ マニュアルズームの場合

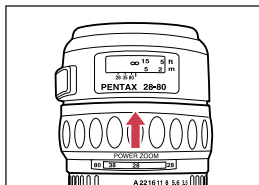
もっと広い範囲を撮りたい場合は、ズームリングを左に回します。もっと大きくしたい場合は、ズームリングを右に回します。

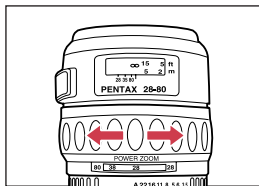
■ パワーズーム可能なレンズを手動で使用する場合

ズームリングを手前に引いて[ＰＯＷＥＲ ZOOM]の文字が隠れるようにしてからズームリングを左右に回します。

■ パワーズームを電動ズームで使用する場合

① ズームリングを前に押し出すようにして、[POWER ZOOM]の文字が見えるようにします。

② ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側へ動き、手を離すと止まります。

■ パワーズームの使いかた

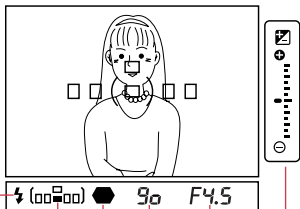
- ズーミング速度は、ズームリングの回転させる角度によって3段階に変化します。回転角度を大きくする(当て付ける)と高速、小さくすると低速、その中間では中間速度でズームします。
- パワーズームでズーミングすると、自動的にピント合わせも行われます。ただし、最終的なピント合わせは、シャッターボタンの半押しで行ってください。

2 シャッターをきる

①シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

ファインダー内に撮影情報（測距点表示、シャッター速度、絞り値、ストロボ状態）が表示されます。

シャッターボタンの操作は、カメラの重心に向かって指を滑らすような感覚です。

メモ ファインダー内の表示について

ストロボマーク
室内などストロボ発光が必要な場合には点滅します。ストロボボタンを押して、内蔵ストロボを発光できる状態にしてください。☞ p.32
充電が完了すると点灯に変わります。

測距点表示
現在ピントを合わせている測距点の位置が点灯します。ピントが合っていないときは、全点灯となります。

絞り値

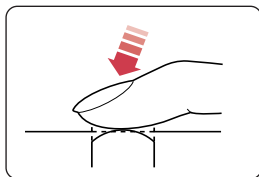
バーグラフ

シャッター速度

合焦マーク
ピントが合うと点灯します。点滅している場合は、ピントが合っていません。

※ ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

②ファインダー内の撮影情報を確認して、シャッターボタンをさらに最後まで押し込みます。

シャッターボタンは、図のように真下ではなく、カメラの中心方向に押すことで、より手ぶれの少ない撮影ができます。

内蔵ストロボについて

内蔵ストロボを使用するときの基本操作について説明します。

内蔵ストロボの発光方式を設定する操作や、外付けストロボの使用については「ストロボを使用して撮影する」（☞ p.89）を参照してください。

内蔵ストロボを使用する

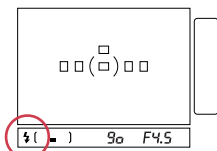
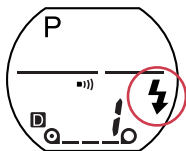
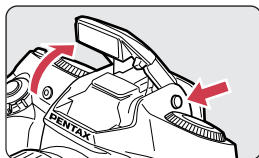
内蔵ストロボを常に発光できる状態（強制発光）にする操作について説明します。被写体が明るくても常にストロボが発光されます。

- 内蔵ストロボを使用するときは、レンズフードは使用しないでください。ストロボの光を遮ることがあります。
- 内蔵ストロボは、使用するレンズによっても違いますが、被写体との距離約4メートル以内を目安としてご使用ください。（フィルム感度がISO400の場合）

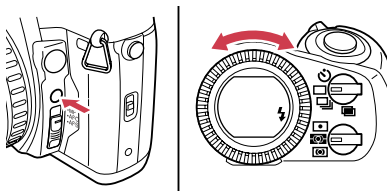
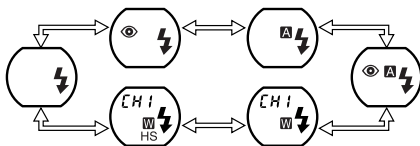
1 内蔵ストロボを使用できる状態にする

①電源が入っていることを確認し、ストロボボタンを押します。

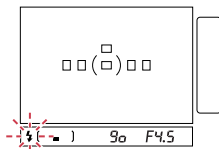
ストロボが跳ね上がり、ストロボの自動充電が開始されます。

電子ダイヤルディスプレーとファインダー内に⚡が表示されると、内蔵ストロボが使用できます。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ ⚡以外のマークが表示されている場合

側面ボタンを押しながら、Tv電子ダイヤルを回します。

電子ダイヤルディスプレーの発光方式は以下のように表示されます。

- 電子ダイヤルディスプレーに表示される発光方式の表示については、「ストロボを使用して撮影する」（☞ p.92）を参照してください。
- 自動発光 A はプログラム自動露出でのみ選択できます。

メモ ストロボ発光のお勧めマークについて

ストロボが上がっていない状態で、ファインダー内と電子ダイヤルディスプレーに、⚡が点滅しているときは、ストロボを使用しての撮影をお勧めします。
また、望遠レンズなどを使用していて内蔵ストロボの光が届かないような場合には、手ぶれ防止のため三脚などに固定して撮影することをお勧めします。

※ ファインダー内の表示比率は、
実際のものと異なります。

ϟは、以下のモードに設定されているときに点滅します。

- **露出モード[絞り優先自動露出][プログラム自動露出]**
  写したいものが、暗い場合または逆光の場合に点滅します。
- **露出モード[シャッター優先自動露出][マニュアル露出]**
  写したい物が、逆光の場合のみ点滅します(暗い場合は点滅しません)。
- **測光方式[中央重点測光]または[スポット測光]**
  写したい物が、暗い場合のみ点滅します(逆光の場合は点滅しません)。

2 内蔵ストロボを発光させる

①ファインダー内と電子ダイヤルディスプレーに、ϟが表示されていることを確認し、シャッターボタンを押します。

内蔵ストロボが発光し、ストロボの自動充電が開始されます。

電子ダイヤルディスプレーとファインダー内にϟが表示されると、次のストロボ撮影が可能です。

メモ

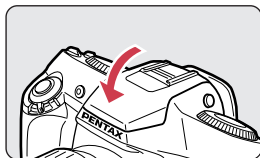
- ストロボ充電中は、シャッターは切れません。
- ストロボを連続して使用すると、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。

メモ **ϟが点滅しているときは**

ストロボ撮影に不適切なF･FAレンズを使用すると、充電完了後にシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内と電子ダイヤルディスプレーにϟが点滅します。その状態でもストロボを発光して撮影できますが、写真の四隅や下半分が暗くなる場合があります。

「内蔵ストロボ使用時のF･FAレンズ適合表」☞ p.95

3 内蔵ストロボを収納する

①撮影終了後、図のようにして内蔵ストロボの上部を押して収納します。

AF補助光の発光について

オートフォーカスをAF.S（シングル）に設定している場合、被写体が暗い状態ではピントの調整ができません。このときは内蔵ストロボを上げてください。シャッターボタンを半押しにしたり、AFボタンを押すと、ピント調整のため内蔵ストロボが連続発光します（AF補助光）。AF補助光の有効範囲は、1～5mを目安にしてください。

フィルムの巻き戻しと設定について

フィルムの巻き戻し(自動/途中巻き戻し)と、DXフィルム以外を使用するときのISO感度の設定、フィルムに撮影情報を印字するかどうかの設定について説明します。

フィルムを巻き戻す

フィルムの自動巻き戻しと、途中巻き戻しについて説明します。

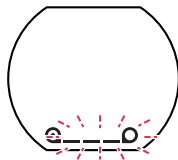
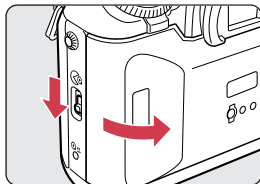
- フィルムを取り出すときは、直射日光の当らないところで取り出してください。
- 巻き戻し中は、裏ぶたを開けないでください。
- フィルム枚数に「30」が表示された時点で、フィルム残量告知として、約2秒間電子音が鳴り、同時に表示パネルのパトローネマークが点滅します。

◆フィルムの自動巻き戻し

メモ

フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大切な写真は、規定枚数を撮り終えた時点で途中巻き戻しを行ってください。

①フィルムを最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

巻き戻し中は、フィルムマークの「＿＿＿o」部分が点滅し、巻き戻しが終了するとフィルムマークが点滅して撮影枚数の表示が消えます。

②撮影枚数の表示が消えて◙が点滅していることを確認し、裏ぶた開放レバーを下に下げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

◆フィルムの途中巻き戻し

フィルムの規定枚数を撮り終えていない時点で、フィルムを巻き戻します。

メモ

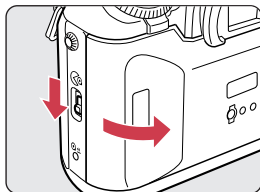
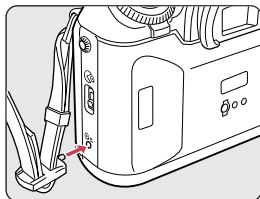
- 使用途中で巻き戻したフィルムは、そのフィルムを再度セットし指定コマから撮影することもできます（☞p.124）。
- フィルムを巻き戻すときは、フィルムを再度セットできるように、先端を残した状態で巻き取ることもできます(☞p.124)。

①電源スイッチを[ON]位置に合わせます。

②ストラップ留め具の突起部分で、カメラの側面にある途中巻き戻しボタンを押します。

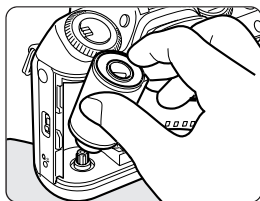
メモ

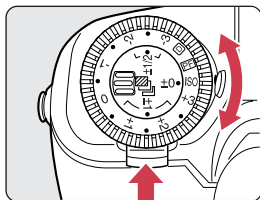
途中巻き戻しボタンを傷付けることがありますので、できるだけストラップ留め具以外は使わないでください。やむを得ない場合は、ボールペンの先などで、押し込み過ぎに気をつけて行ってください。

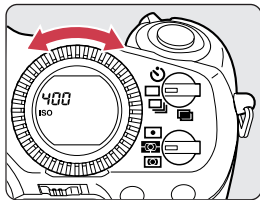
③撮影枚数の表示が消えて◙が点滅していることを確認し、裏ぶた開放レバーを下に下げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

DXフィルム以外を使用するときの感度を設定する

DXのフィルムは、自動的に感度が設定されます。DX以外のフィルムを使用するときは、以下の操作で、フィルム感度を設定してください。

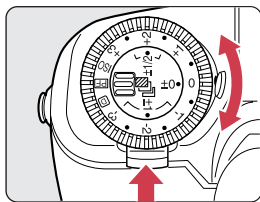
1 フィルムをセットする

①DX以外のフィルムをセットします。

2 フィルム感度を設定する

①ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[ISO]位置に合わせます。

②Tv電子ダイヤルを左右に回し、フィルム感度を設定します。

- フィルム感度の設定範囲は、ISO 6〜6400 1/3段階(EV)です。
- DXフィルムを使用しているときに、DXフィルムの感度と違う感度を設定すると「ISO」が表示されたままになります。

③設定終了後、ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[0]位置に戻します。

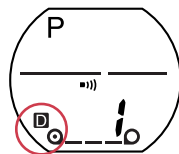
メモ　フィルム感度の設定について

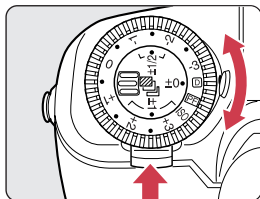
- 露出補正ダイヤルが[ISO]位置で、DXフィルム以外をセットしているときにTvオートボタンを押すと「ISO 100」になります。
- 露出補正ダイヤルが[ISO]位置で、DXフィルムをセットしているときにTvオートボタンを押すと、セットしたDXフィルムの感度に戻ります。

撮影データをフィルムに印字する

本機では、撮影時の露出モードや測光方式、シャッター速度、絞り値、露出補正値および、オートブラケットの有り無しをフィルムに印字できます。

1 設定状態を確認する

①電源スイッチを、[ON]位置に合わせます。

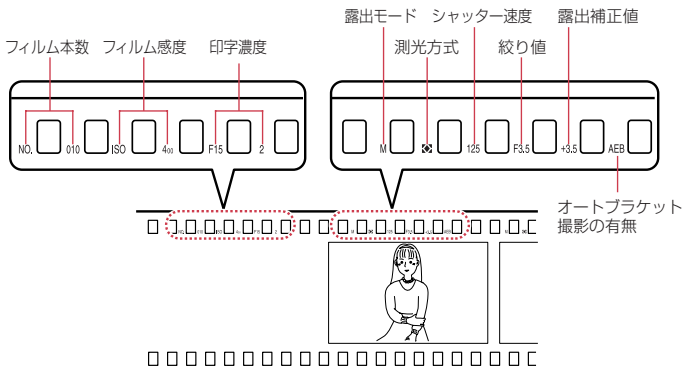
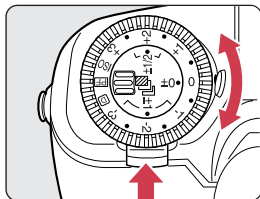
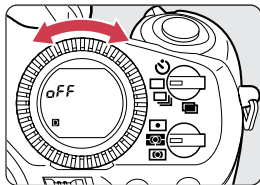
電子ダイヤルディスプレーに[D]が表示されている場合は、撮影データをフィルムに印字する設定になっています。

2 印字の有無を設定する

①ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[D]位置に合わせます。

②Tv電子ダイヤルを左右に回し、「oFF」または「on」を設定します。

撮影データの印字を「oFF」に設定し、露出補正ダイヤルを「D」以外にすると「D」表示が消え、フィルム本数が「001」に戻ります。

③設定終了後、ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[0]位置に合わせます。

撮影データの印字について

- 撮影データは、フィルムに以下のように印字されます。1コマ目より前のコマには、トータルのフィルム本数とフィルム感度、印字濃度が印字されます。
- 撮影データの印字濃度は、フィルムによってばらつきがあります。テスト撮影をされることをお勧めします。薄いときや濃い場合はペンタックスファンクションNo.15で調整してください。(☞ p.126)
- 多重露出の場合、1枚目のデータが印字されます。

項目	印字内容
フィルム本数	今までに使用したフィルムの本数を印字。 1～999本までカウントし、その後001本に戻る。 撮影データの印字[oFF]でもリセットされる。
フィルム感度	セットしたDXフィルムの感度や設定したフィルム感度を印字。6～6400までのフィルム感度が印字可能。
印字濃度	ペンタックスファンクションNo.[F15]の設定番号を印字。
露出モード	設定されている露出モードを印字。 M(マニュアル露出)/Tv(シャッター優先自動露出)/Av(絞り優先自動露出)/P(プログラム自動露出)
測光方式	設定されている測光方式のマークを印字。 (分割測光)/ (中央重点測光)/ (スポット測光)
シャッター速度	ファインダー内に表示されているシャッター速度を印字。 バルブ撮影時は「BU」と印字。 シャッター速度が1秒では「1"」のように印字。
絞り値	ファインダー内に表示されている絞り値を印字。 F-FA以外のレンズやヘリコイド接写リングなど情報接点のないアクセサリーを使用した場合は「F--」と印字。
露出補正値	露出補正を設定していない場合は「±0.0」と印字。 露出補正かオートブラケットを単独で使用時はその補正値を印字。オートブラケットと露出補正を併用時は、その加算値を印字。
オートブラケット撮影の有無	オートブラケット撮影時に「AEB」と印字。

メモ

- 撮影データの印字は、日付や時刻を写し込む電池ではなく、本体の電池(CR2)で行います。
- 印字は、フィルム巻き戻しの時点でまとめて行われます。
- 撮影データは、フィルムの穴(パーフォレーション)に重なったり、フィルム上に印刷されている文字に重なることがあります。

電池の交換について

撮影に必要な電池（リチウム電池CR2）の交換が必要なときと、日付や時刻の写し込みが薄くなったときの電池(リチウム電池CR2025)の交換について説明します。
また、電池を交換後の日付や時刻の修正方法について説明します。

撮影に必要な電池の交換について

撮影に必要な電池（リチウム電池CR2）が消耗したときには新しい電池と交換してください。

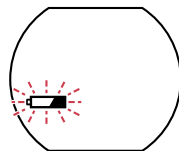
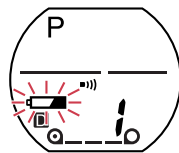
◆電池が消耗した場合

電池が消耗すると、電子ダイヤルディスプレーに電池消耗警告 が点灯します。

新しい電池（リチウム電池CR2）をご用意ください。電池消耗警告 が点灯した状態でも、シャッターがきれれば露出に問題はありません。

◆電池交換が必要な場合

電池消耗警告 が点滅すると、ファインダー内表示が消え、カメラは作動しなくなります。新しい電池（リチウム電池ＣＲ２）に交換してください（☞p.15）。

メモ

- 電池を交換するときは、すべての電池を交換してください。その際に新しい電池と古い電池を混ぜてセットしないでください。また、交換する電池は同一メーカーの同一種類の電池を使用してください。
- 電池を交換すると設定が以下のようになります。それ以外は変更されません。

  ストロボの赤目軽減機能……………「なし」
  内蔵ストロボアップ時の自動発光…「なし」(強制発光)
  ワイヤレス制御………………………「なし」、CH1(チャンネル)
  ハイスピードシンクロ………………「なし」
  撮影データの写し込み………………「あり」

- 長期間カメラを使用していない場合、新しい電池に交換しても、電子ダイヤルディスプレーに電池消耗警告 が点灯することがあります。この場合は、電源を入れ、シャッターボタンを半押しにすることで、電池消耗警告 が消えれば、そのまま使用できるようになります。

メモ フィルムの撮影本数と電池消耗について

電池交換の目安として、新しい電池を交換後、撮影できるフィルム本数(24枚撮りフィルム)の目安を表記します。

	フィルム本数(使用温度20℃)	フィルム本数(使用温度-10℃)
一般撮影	約 50本	約 30本
ストロボ撮影(使用率50%)	約 15本	約 10本
ストロボ撮影(使用率100%)	約 8本	約 5本
バルブ露出時間	約 8時間	約 2時間

- 上記表は、新品のリチウム電池CR2での当社試験条件によるものです。
- 撮影可能なフィルム本数は、使用条件によって変わります。
- 低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。また、低温では撮影できるフィルム本数は少なくなります。
- 同梱されている電池は、サンプル用のため、上記のフィルム本数を撮影できないことがあります。

日付や時刻の写し込みが薄くなったときの電池交換

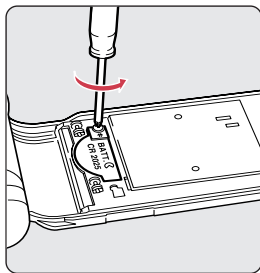
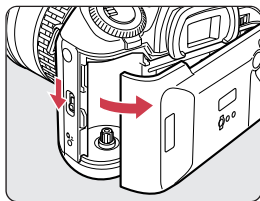
日付や時刻の表示や写し込みが薄くなったときは、内蔵電池(リチウム電池CR2025)の交換が必要です。

メモ

- リチウム電池CR2025の寿命は、約3年です。日付や時刻の表示や写し込みが薄くなってきたり、写らなくなった場合は、必ず新しいリチウム電池CR2025に交換してください。
- 電池交換は、最寄のサービスセンターでも有料で承ります。
- 電池交換後は、日付や時刻を修正して使用してください(☞ p.46)。

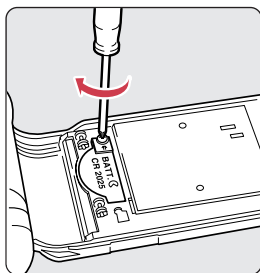
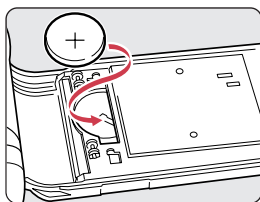
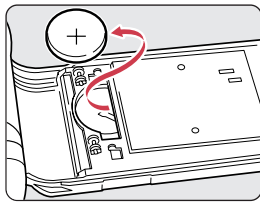
1 古い電池を取り外す

①フィルムが入っていないことを確認して、裏ぶた開放レバーを下に下げ、裏ぶたを開きます。

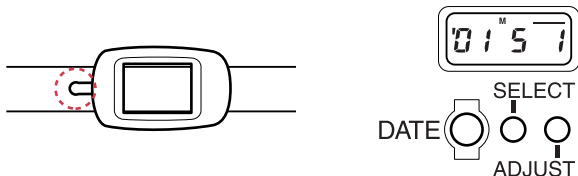
②裏ぶた内側にある**BATT.**マークで示されている電池ぶたを、ドライバーを使って取り外します。

③古い電池を取り出します。

2 新しい電池をセットする

①新しい電池の[+]側を上にしてセットします。

②電池ぶたを元の位置に戻し、ドライバーを使って取り付けます。

日付時刻を修正する

内蔵電池を交換したときや、任意に日付を修正する操作について説明します。

- 説明中の[DATE]以外のボタンを押す操作は、ストラップ留め具の突起部分を使用してください。

- 日付や時刻の表示形式の設定については、「日付や時刻を写し込む」(☞ p.18)を参照してください。

1 日付を修正する

①[SELECT]ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。

点滅の順番は、年→月→日→年の順番です。

②[ADJUST]ボタンを押して、数字を修正します。

1回押すごとに数字が1つ進みます。押し続けると約2〜3秒後に早送りされます。

③数字を修正後、[SELECT]ボタンを押すと、点滅が終了し修正した数字を確定します。

2 時分秒を修正する

①[SELECT]ボタンを押して、時・分・[　：　]表示のうち修正したい数字(秒の場合は[　：　])を点滅させます。

点滅の順番は、時→分→[　：　]→時の順番です。

②[ADJUST]ボタンを押して、数字を修正します。

1回押すごとに数字が1つ進みます。押し続けると約2〜3秒後に早送りされます。

③数字を修正後、[SELECT]ボタンを押すと、点滅が終了し修正した数字を確定します。

メモ **日付時刻の写し込みについて**

- 写真に日付時刻を写し込むかどうか、写し込む日付時刻の形式の設定については、「日付や時刻を写し込む」(☞ p.18)を参照してください。
- 日付や時刻を写し込むことができるできる条件は以下の通りです。

  温度……………約50℃〜0℃

  ＊ただし、低温下では、写し込まれる日付時刻が薄くなることがあります。

  フィルム感度…ISO25〜1600

  ＊高感度フィルム(ISO 1000以上)を使用した場合、日付時刻がにじむことがあります。
  ＊ISO　50以下のフィルムを使用した場合、日付時刻が薄くなることがあります。

- 日付時刻を修正中(数字が点滅中)に、シャッターをきっても日付時刻は写し込まれません。

STEP UP
ステップアップ

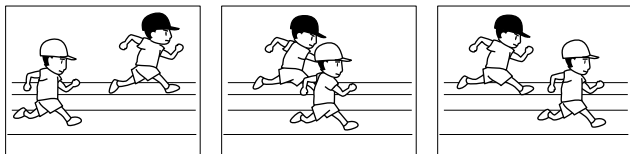
機能をフルに活用する

いろいろな撮影方法について

本機には、1コマずつ撮影する(1コマ撮影)機能のほかに、以下の撮影機能があります。

- **連続撮影**…シャッターボタンを押し続けている間、連続的にシャッターがきれます。☞ p.50
- **多重露出**…前の写真に、写真を重ねて撮影します。☞ p.51
- **セルフタイマー撮影**…シャッターボタンを押した後、約12秒後にシャッターがきれ、撮影者も含めての撮影ができます。また、ぶれ防止のミラーアップ機能を設定することもできます。☞ p.53
- **オートブラケッティング撮影**…撮影時に、露出補正なし/アンダー露出/オーバー露出の3枚の露出を変えた写真を連続して撮影できます。☞ p.55

連続で撮影する

シャッターボタンを押し続けている間、連続的にシャッターがきれます。

1 連続撮影モードに設定する

①電源スイッチを[ON]にします。

②ドライブレバーを回して、連続撮影マーク位置に合わせます。

2 連続で撮影する－連続撮影

①シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせます。

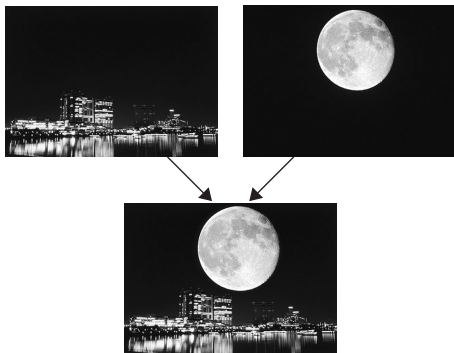
②シャッターボタンを押し続けます。

③シャッターボタンから指を離すと、連続撮影を終了します。

メモ

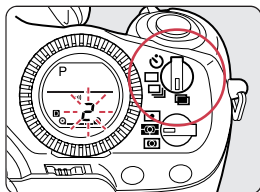
- フォーカスモードレバーがAF.S(シングル)に設定されている場合、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- フォーカスモードレバーがAF.C(コンティニアス)に設定されている場合、シャッターが1回きれるごとにピント調整を行います。ただし、ピントが合っていなくてもシャッターがきれます。
- 内蔵ストロボを使用している場合、充電が完了してからシャッターがきれます。

前の写真に重ねて撮影する－多重露出撮影

フィルムの同じコマに重ねて撮影できます。多重露出モードの設定を解除するまで、写真を重ねて撮影できます。
例えば、背景が暗いもの(夜景など)を先に撮影し、同じコマに人物などにストロボを発光した写真を重ね合わせるなどの撮影ができます。

1 多重露出モードに設定する

①電源スイッチを[ON]にします。

②ドライブレバーを回して、▣位置に合わせます。

撮影枚数が点滅し、多重露出モードが解除されるまで同じ撮影枚数を表示します。

2 多重露出モードで撮影する

①1枚目の写真を撮影します。

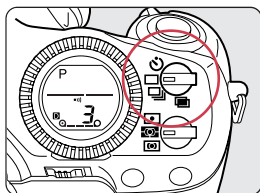
②1枚目の写真に重ね合わせる写真を撮影します。

多重露出モードの設定を解除するまで、写真を重ねて撮影できます。

3 多重露出モードを解除する

①ドライブレバーを回して、▣以外の位置に合わせます。

多重露出モードを終了し、フィルム枚数が1コマ送られます。

電源スイッチを[OFF]にしても、多重露出モードは解除されません。ドライブレバーを他のモードに設定することで解除されます。

セルフタイマーで撮影する―セルフタイマー撮影

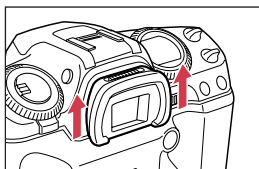
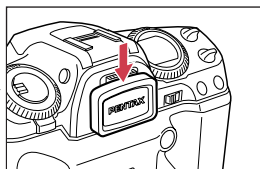
シャッターボタンを押した後、約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も含めての撮影や、ぶれ防止のミラーアップ機能も使用できます。

1 セルフタイマーモードに設定する

①電源スイッチを[ON]にします。

②ドライブレバーを回して、Ò位置に合わせます。

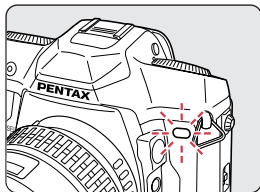
メモ ファインダーからの逆入光を防ぐには

自動露出でセルフタイマー撮影するときは、ファインダーから入る光を防ぐために、AEロック機能(☞ p.69)や付属のファインダーキャップをご利用ください。

アイカップFLを取り外す

ファインダーキャップをセットする

2 セルフタイマーモードで撮影する

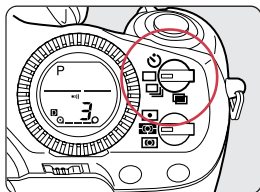
①シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせます。

②シャッターボタンを押しきります。

セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを押しきった後、約12秒後にシャッターがきれます。

3 セルフタイマーモードを解除する

①ドライブレバーを回して、セルフタイマー以外の位置に合わせます。

セルフタイマーモードを終了します。

セルフタイマーが動作中でも、ドライブレバーをセルフタイマー以外の位置に合わせることで解除できます。

メモ　ミラーアップ機能を使用するには

ミラーの作動によるぶれを防ぐために、シャッターボタンを押しきった後、ミラーをアップした状態で約2秒後にシャッターがきれるように設定できます。
ミラーアップ機能を有効にするには、ペンタックスファンクションNo.14の設定で、[2]（2秒：ミラーアップ機能）を指定し（p.125）、セルフタイマーモードで撮影してください。

自動で露出を変更して連続撮影するーオートブラケット

シャッターボタンを押したときに、露出が違う写真を連続して撮影できます。1枚目は補正なしの写真、2枚目はマイナス側の写真、3枚目はプラス側の写真を撮影します。
マイナス側、プラス側の露出補正値の幅は、±1/2段階(EV)と±1段階(EV)の2種類が設定できます。

露出補正と組み合わせて使用することで、オーバー方向のみやアンダー方向のみのオートブラケット撮影が可能です(☞ p.57)。

補正なしの写真

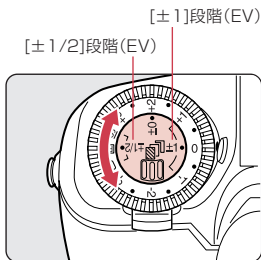
−1段階(EV)の写真

+1段階(EV)の写真

- 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合)。
- オートブラケットモードで撮影する時のコマ数や補正値の順番は、ペンタックスファンクションで設定できます。☞ p.119、120

1 オートブラケットモードに設定する

①電源スイッチを[ON]にします。

②オートブラケットダイヤルを回して、[±1/2]段階(EV)または[±1]段階(EV)位置に合わせます。

2 オートブラケットモードで撮影する

①シャッターボタンを半押しにして、写したいものにピントを合わせます。

ファインダー内に、バーグラフが表示され、現在の露出補正値が点滅します。

メモ

- フォーカスモードレバーがAF.S(シングル)に設定されている場合、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。ただし、シャッターボタンから一旦指を離すと、再度ピントを合わせ直します。
- フォーカスモードレバーがAF.C(コンティニアス)に設定されている場合、シャッターが1回きれるごとにピント調整を行います。ただし、ピントが合っていなくてもシャッターがきれます。

②シャッターボタンを押し続けます。

ファインダー内のバーグラフが、1枚目は補正なし、2枚目はマイナス側、3枚目はプラス側に点滅し、3枚の写真が撮影されます。

メモ

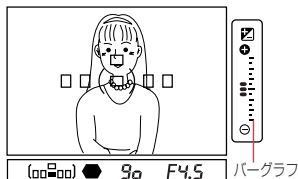
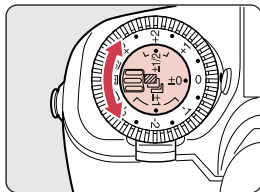
撮影途中でシャッターボタンを離しても、約20秒間は設定値が保持され、次の補正値で撮影できます。約20秒を過ぎると1枚目からの撮影状態に戻ります。

補正なしの場合

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

3 オートブラケットモードを解除する

①オートブラケットダイヤルを回して、[±0]位置に合わせます。

オートブラケットモードを終了します。

メモ ドライブモードとの組み合わせ

1コマ撮影以外でも、「連続撮影」、「セルフタイマー撮影」、「多重露出撮影」との組み合わせで、オートブラケット撮影が可能です。

メモ オーバー方向やアンダー方向のみの写真を撮るには

露出補正機能（☞p.68）と組み合わせることで、オーバー方向のみやアンダー方向のみのオートブラケット撮影ができます。
いずれの場合も、露出補正値を中心にしたオートブラケット撮影となります。

●オーバー方向のみの写真を撮るには

[±1/2]段階（EV）……. 露出補正ダイヤルを[＋1/2]に合わせます。
1コマ目＝＋1/2EV、2コマ目＝±0EV、3コマ目＝＋1EV

[±1]段階（EV）………… 露出補正ダイヤルを[＋1]に合わせます。
1コマ目＝＋1EV、2コマ目＝±0EV、3コマ目＝＋2EV

●アンダー方向のみの写真を撮るには

[±1/2]段階（EV）……. 補正ダイヤルを[－1/2]に合わせます。
1コマ目＝－1/2EV、2コマ目＝－1EV、3コマ目＝0EV

[±1]段階（EV）………… 露出補正ダイヤルを[－1]に合わせます。
1コマ目＝－1EV、2コマ目＝－2EV、3コマ目＝0EV

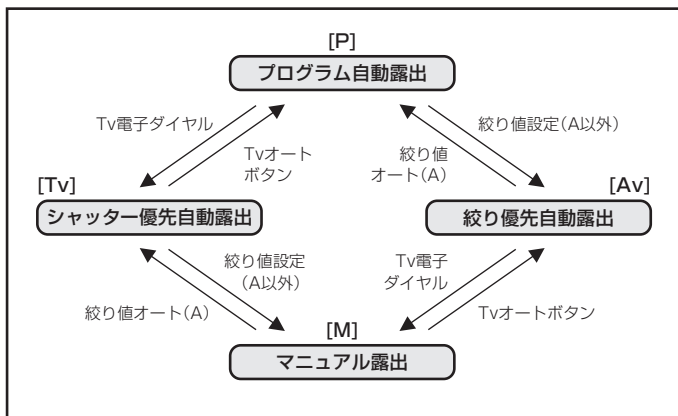
メモ

内蔵ストロボあるいは、外付けストロボ（TTL、P-TTLオートの場合のみ）とオートブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま3コマ連続に撮影すると、充電完了前に2コマ目、3コマ目が撮影されてしまうことがありますので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。

露出設定について

本機には、露出を設定する方法として以下の露出モードがあります。

- **プログラム自動露出**…撮るものの明るさに合わせて、自動的にシャッター速度と絞り値が設定されます。☞ p.60
- **シャッター優先自動露出**…シャッター速度の設定に合わせ、自動的に絞り値が設定されます。☞ p.62
- **絞り優先自動露出**…絞り値の設定に合わせ、自動的にシャッター速度が設定されます。☞ p.64
- **マニュアル露出**…シャッター速度と絞り値を自分で指定して撮影します。☞ p.65
- **バルブ露出**…シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開き続けます。☞ p.67

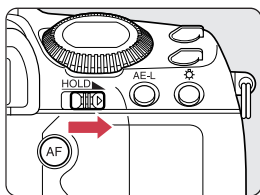
メモ **露出モードの切り替えについて**

その他の露出に関する設定には以下の機能があります。
- **露出補正**…自動で設定された露出を、意図的に明るくしたり、暗くしたりできます。☞ p.68
- **AEロック**…撮影前の露出を記憶させます。☞ p.69

HOLDレバーについて

撮影中に間違ってTv電子ダイヤルを回したり、Tvオートボタンを押しても、露出モードやシャッター速度が変更されないようにできます。

1 [HOLD]レバーを右側にずらす

Tv電子ダイヤルやTvオートボタンの操作が無効になります。

Tv電子ダイヤルを回したり、Tvオートボタンを押すと、電子ダイヤルディスプレーに「Hold」の文字が点滅します。

2 解除するときは、[HOLD]レバーを元の位置に戻す

[HOLD]レバーを右側にずらしていても、露出モードやシャッター速度を変更する以外の操作は有効です。例えば、フィルム感度やペンタックスファンクションの設定で、Tv電子ダイヤルを回したり、Tvオートボタンを押す操作は、[HOLD]状態でも可能です。

STEP UP
機能をフルに活用する

プログラム自動露出で撮影する

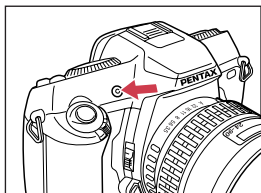
撮るものの明るさに合わせて、自動的にシャッター速度と絞り値が設定されます。

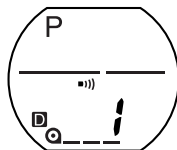
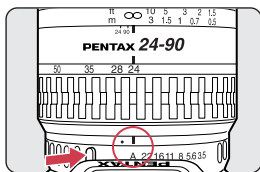
1 プログラム自動露出に設定する

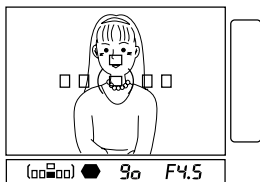
①電源スイッチを[ON]にします。

②レンズの絞りオートロックボタンを押しながら回し、[A]位置に合わせます。

電子ダイヤルディスプレーに[P]が表示され、プログラム自動露出が設定されます。

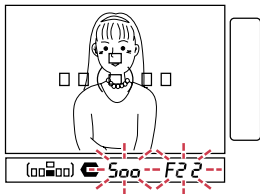
電子ダイヤルディスプレーに[P]が表示されていない場合は、Tvオートボタンを押します。

2 プログラム自動露出で写真を撮る

①ファインダーをのぞき、撮るものをファインダーに入れます。

②シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

電子ダイヤルディスプレーにシャッター速度、絞り値、ファインダー内に測距点、シャッター速度、絞り値が表示されます。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

③ファインダー内の撮影情報を確認して、シャッターボタンをさらに最後まで押し込みます。

シャッター速度と絞り値が点滅していたら

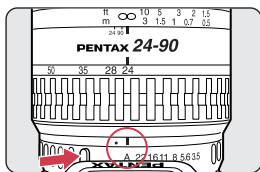
写したいものが明るすぎたり暗すぎると、ファインダー内のシャッター速度と絞り値の表示が点滅します。明るすぎるときは、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

シャッター優先自動露出で撮影する

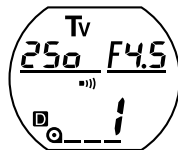
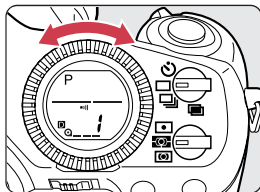
シャッター速度を設定し、撮るものの明るさに合わせて自動的に絞り値が設定されます。速い速度に設定することで動きのあるものを止まったように撮影したり、遅い速度に設定することで動感のある写真が撮影できます。

1 シャッター優先自動露出に設定する

①電源スイッチを[ON]にします。

②レンズの絞りオートロックボタンを押しながら回し、[A]位置に合わせます。

③Tv電子ダイヤルを回し、シャッター速度を設定します。

電子ダイヤルディスプレーに「Tv」とシャッター速度、絞り値が表示されます。

HOLDレバーが右側にあると、シャッター速度は変更できません。

2 シャッター優先自動露出で写真を撮る

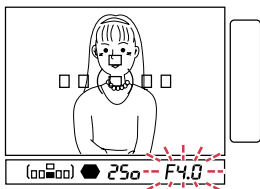
①ファインダーをのぞき、撮るものをファインダーに入れます。

②シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

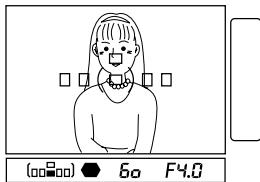
電子ダイヤルディスプレーにシャッター速度、絞り値、ファインダー内に測距点、シャッター速度、絞り値が表示されます。

③ファインダー内の撮影情報を確認して、シャッターボタンをさらに最後まで押し込みます。

メモ **絞り値が点滅していたら**

写したいものが明るすぎたり暗すぎると、ファインダー内の絞り値の表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅く設定してください。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ

シャッター速度と絞り値が点滅していたら測光範囲外です。
明るすぎるときは、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

絞り優先自動露出で撮影する

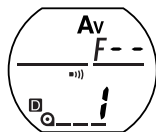
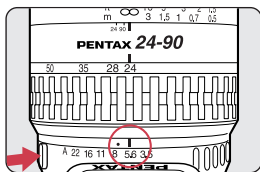
絞り値を設定し、撮るものの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が設定されます。絞り値を小絞り側(数字の大きいほう)へ設定するとピントの合う範囲を広くしたり、絞り値を開放側(数字の小さいほう)へ設定すると背景をぼかして人物だけを浮き上がらせた写真が撮影できます。

1 絞り優先自動露出に設定する

①電源スイッチを[ON]にします。

②絞り値を設定します。

電子ダイヤルディスプレーに[Av]が表示されます。

- [Av]が表示されないときは、Tvオートボタンを押してください。
- 絞りを[A]位置から外す場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。

2 絞り優先自動露出で写真を撮る

①ファインダーをのぞき、撮るものをファインダーに入れます。

②シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

電子ダイヤルディスプレーにシャッター速度、絞り値、ファインダー内に測距点、シャッター速度、絞り値(絞り値は目安表示です。F･FAレンズのみ表示可能)が表示されます。

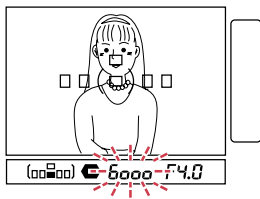
③ファインダー内の撮影情報を確認して、シャッターボタンをさらに最後まで押し込みます。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

シャッター速度が点滅していたら

写したいものが明るすぎたり暗すぎると、ファインダー内のシャッター速度の表示が点滅します。明るすぎるときは絞り値を小絞り側（数字の大きいほう）へ、暗すぎるときは絞り値を開放側(数字の小さいほう)へ設定してください。

メモ

シャッター速度と絞り値が点滅していたら測光範囲外です。
明るすぎるときは、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

マニュアル露出で撮影する

絞り値とシャッター速度を自分で指定して撮影をします。

1 マニュアル露出に設定する

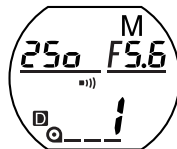
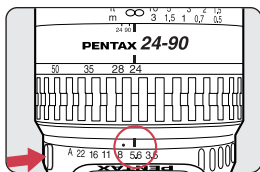
①電源スイッチを[ON]にします。

②絞り値がオート（A）になっている場合は、レンズの絞りオートロックボタンを押しながら回し、絞り値を設定します。

③Tv電子ダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。
電子ダイヤルディスプレーに「M」(マニュアル)と設定したシャッター速度が表示されます。

メモ

HOLDレバーが右側にあると、シャッター速度は変更できません。

STEP UP 機能をフルに活用する

2 マニュアル露出で写真を撮る

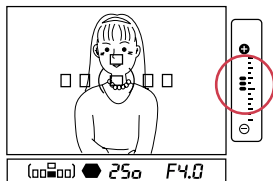
①ファインダーをのぞき、撮るものをファインダーに入れます。

②シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

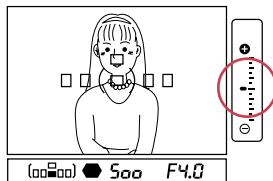
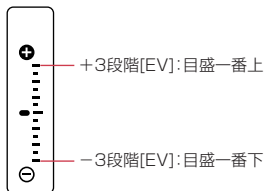
電子ダイヤルディスプレーにシャッター速度と絞り値が表示されます。

ファインダー内に測距点、シャッター速度、絞り値（絞り値は目安です。F･FAレンズのみ表示可能）とバーグラフが表示されます。

バーグラフに表示されている▬が、複数表示されている場合は、適正露出が設定されていません。▬が一つになるように、絞り値またはシャッター速度を調整します。

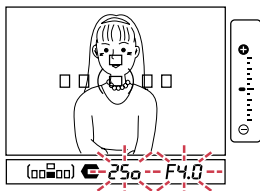
適正な露出でない場合

適正な露出の場合

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ

バーグラフの▬が－側に並んでいる場合は露出不足、＋側に並んでいるときは露出オーバーです。±3段階（EV）を超えた場合は、⊖または⊕が点滅します。

※1目盛は0.5段階[EV]

③ファインダー内の撮影情報を確認して、シャッターをさらに最後まで押し込みます。

メモ　シャッター速度と絞り値が点滅していたら

シャッター速度と絞り値が点滅していたら測光範囲外です。
明るすぎるときは、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

バルブで撮影する

シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けた状態で撮影できます。花火や夜景の撮影など、長時間シャッターを開けておくことが必要なときに設定します。

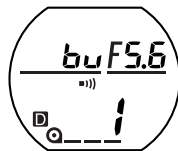
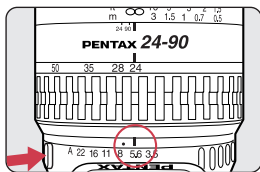
1　バルブに設定する

①電源スイッチを[ON]にします。

②絞り値がオート（A）になっている場合は、レンズの絞りオートロックボタンを押しながら回し、絞り値を設定します。

絞り値をオート(A)位置に設定すると、常に最小の絞り値で撮影されます。

③Tv電子ダイヤルを回して、シャッター速度を遅いほうに回し続けます。

電子ダイヤルディスプレーに「bu」が表示されます。

2 バルブで写真を撮る

①ファインダーをのぞき、撮るものをファインダーに入れます。

②シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

電子ダイヤルディスプレーに「bu」と絞り値(絞り値は目安です。F･FAレンズのみ表示可能。)が表示されます。ファインダー内に撮影情報(測距点、bu、絞り値)が表示されます。

③シャッターボタンをさらに最後まで押し込み続け、任意の時間でシャッターボタンから指を離します。

シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いた状態になります。

メモ **バルブ撮影について**

- バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、別売りの「ワンタッチケーブルスイッチCS-105かCS-130」または「レリーズタイマースイッチTS-110」を使用することをお勧めします。
- 新品の電池を使用した場合、約8時間の長時間露出ができます。

露出を補正する－露出補正

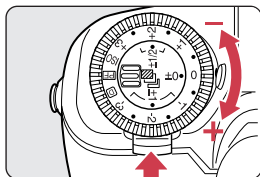
意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)を撮影できます。露出補正は、－3～＋3段階[EV]の範囲で、0.5段階[EV]ごとに設定できます。

露出補正はバルブでは使用できません。

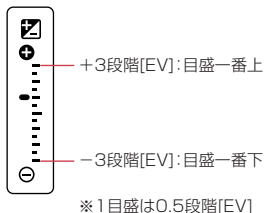
1 露出補正値を設定する

①ロック解除ボタンを押しながら、露出補正ダイヤルを回します。

[＋]側に回すと露出オーバー(明るい写真)

[－]側に回すと露出アンダー(暗い写真)

メモ ファインダー内のバーグラフについて

露出補正を設定すると、ファインダー内にバーグラフが表示されます。

※1目盛は0.5段階[EV]

メモ マニュアル露出の場合について

マニュアル露出で露出補正を行うときは、露出補正ダイヤルを回しただけでは補正されません。ファインダー内のバーグラフの ▬ が一つになるように絞り値またはシャッター速度を調整してから撮影してください。

撮影前の露出を記憶させる−AEロック

撮影前の露出を記憶させます。写したいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときなどは、スポット測光で露出を合わせたい部分だけにポイントを絞って露出を合わせ、記憶させた露出で好きな構図で撮影することができます。

1 露出モードと測光方式を設定する

①露出モードをプログラム自動露出(☞p.60)またはシャッター優先自動露出(☞p.62)、絞り優先自動露出(☞p.64)に設定します。

AEロックは、マニュアル露出やバルブでは使用できません。

②スポット測光に設定します(☞p.73)。

AEロックは、スポット測光以外の測光方式でも露出を記憶できます。ただし、写したいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときなどは、スポット測光に設定することで、露出を測光する範囲を絞り込むことができます。

2 露出を記憶させる

①ファインダーをのぞき、露出を記憶させたいものをスポット測光の範囲いっぱいに入るようにします。

②シャッターボタンを指の腹で軽く押し、半押しの状態にします。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

③ファインダー内で撮影情報を確認し、AEロックボタンを押します。

ファインダー内に「＊」が表示され、現在の露出がシャッターボタンやAEロックボタンから指を離しても約20秒間記憶されます。

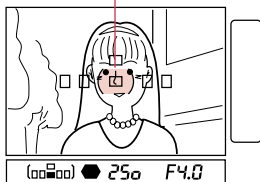
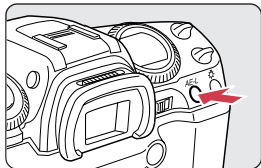
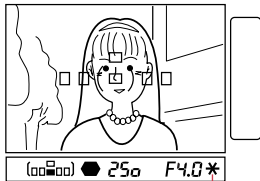
「＊」が表示されている間、記憶した露出で撮影できます。

再度AEロックボタンを押すと解除されます。

AEロック機能が設定されている状態

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

④撮るものの構図や大きさを変え、シャッターボタンを押しきります。

AEロックする対象の反射率によっては、多少の露出補正が必要になります。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

測光方式を設定する

ファインダー内のどの部分で、明るさを測り露出を決定するのかを設定します。測光方式には、6分割測光、中央重点測光、スポット測光があります。

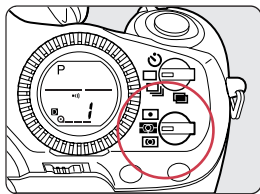
- **6分割測光**…撮るものの大きさや位置、背景などの明るさや逆光を、ファインダー内を6分割して測ります。逆光などの条件でも最適な露出を得ることができます。☞ p.71
- **中央重点測光**…ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときに、カメラ任せではなく、経験的に補正をして決めるときなどに設定します。☞ p.72
- **スポット測光**…ファインダー中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測るときに設定します。☞ p.73

分割測光で写真を撮る

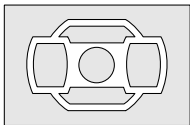
撮るものの大きさや位置、背景などの明るさや逆光を、ファインダー内を6分割して測ります。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかをカメラが判断し、人物が暗くならないように自動的に補正します。

A･F･FA以外のレンズでは、分割測光を設定しても、中央重点測光になります。

1 分割測光を設定する

①測光方式レバーを [分割測光] 位置に合わせます。

2 分割測光で撮影する

①ファインダー内で写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。

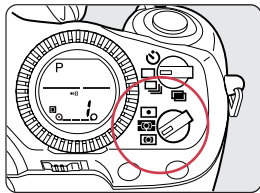
分割測光では、図のように画面内を6つ(アミかけ部分)に分割して明るさを測っています。

②ファインダー内で撮影情報を確認し、シャッターボタンを押しきります。

中央重点測光で写真を撮る

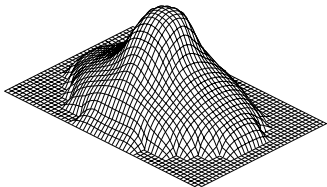
ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときに、カメラ任せではなく、経験的に補正をして決めるときなどに設定します。

通常の撮影では、測光方式レバーを 位置に合わせ、分割測光で撮影することをお勧めします。

1 中央重点測光を設定する

①測光方式レバーを 位置に合わせます。

2 中央重点測光で撮影する

①ファインダーで写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。

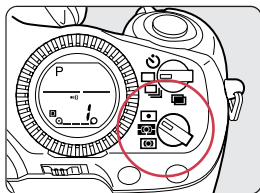
中央重点測光では、図のように高さが高い部分(中央部分)ほど感度が良くなります。逆光の場合でもカメラが自動補正しませんので、経験的な判断をもとに露出を補正してください。

②ファインダー内で撮影情報を確認し、シャッターボタンを押しきります。

スポット測光で写真を撮る

ファインダー中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測るときに設定します。写したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときにAEロック機能(☞ p.69)と組み合わせて使用すると便利です。

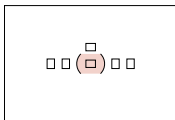
通常の撮影では、測光方式レバーを 位置に合わせ、分割測光で撮影することをお勧めします。

1 スポット測光を設定する

①測光方式レバーを⊡位置に合わせます。

2 スポット測光で撮影する

①ファインダーで写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。

メモ

- スポット測光では、図のようにファインダー中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測ります。

- 露出を固定するときは、AEロックボタンを押してください(☞ p.69)。

②ファインダー内で撮影情報を確認し、シャッターボタンを押しきります。

ピント調整について

ピント調整に関する設定として、オートフォーカス(AF.S/AF.C)での撮影方法、マニュアルフォーカスでの撮影方法、測距点の切り替え方法について説明します。

- **オートフォーカス撮影**…ピントを自動で調整します。オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしたときにピントを固定するシングルモード(AF.S)、被写体にあわせて常にピントを調整するコンティニアスモード(AF.C)があります。☞p.75
- **マニュアルフォーカス撮影**…ピント調整を手動で行います。☞p.79
- **測距点の切り替え**…被写体のピント調整位置をオートに設定したり、ファインダーの指定位置でピントを調整することができます。☞p.81

オートフォーカスで写真を撮る

ピントを自動で調整します。オートフォーカスには、シャッターボタンを半押しにしたときにピントを固定するシングルモード(AF.S)、被写体にあわせて常にピントを調整するコンティニアスモード(AF.C)があります。

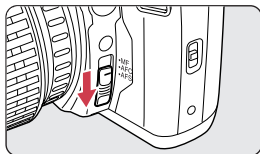
メモ

以下の場合は、オートフォーカスや合焦表示●によるピント調整ができません。ファインダーのマット面を利用し、手動でピントを調整してください(☞p.80)。

- 合焦表示●が点滅する場合(オートフォーカスが苦手な被写体)☞p.78
- 開放F値が、F5.6より暗いレンズを使用している場合
- ベローズ100mmF4、シフト28mmF3.5(シフト状態)、レフレックスタイプのレンズを使用している場合
- 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用している場合

◆シングルモード(AF.S)で撮影する

1 シングルモード(AF.S)を設定する

①フォーカスモードレバーを[AF.S]位置に合わせます。

2 シングルモード(AF.S)で撮影する

①**ファインダーで写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。**

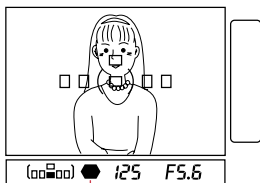
自動でピントを調整し、ピントが合うと合焦マーク●が点灯して「ピピッ」と電子音が鳴ります。

- ピントを調整するときに、シャッターボタンを半押しにする代わりに、AFボタンを押すことで、ピントを合わせることもできます。
- ●が点灯している間は、ピントが固定(フォーカスロック)されます。別のものにピントを合わせるときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。

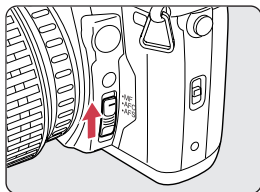
※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

②**ファインダー内で合焦マーク●が点灯していることを確認し、シャッターボタンを押しきります。**

メモ

合焦マーク●が点滅しているときは、ピントが合っていません。シングルモード(AF.S)に設定されていると、ピントが合わない限りシャッターはきれません。写したいものに近づきすぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手な被写体(☞ p.78)の場合は、手動でピントを調整してください(☞ p.79)。

◆コンティニアスモード(AF.C)で撮影する

1 コンティニアスモード(AF.C)を設定する

①フォーカスモードレバーを[AF.C]位置に合わせます。

2 コンティニアスモード(AF.C)で撮影する

①ファインダー内で写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。

自動でピントを調整し、ピントが合うと合焦マーク⬣が点灯して「ピピッ」と電子音が鳴ります。

コンティニアスモード(AF.C)では、被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。

②シャッターボタンを押しきります。

コンティニアスモード(AF.C)では、ピントが合ってない状態でも、シャッターボタンを押しきるとシャッターがきれます。

メモ オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構は、きわめて精度の高いものですが、被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、以下のようにピントが合わない場合があります。
ピントが合わないときには、被写体とほぼ等しい距離のものにいったんピントを固定(フォーカスロック)したり(☞ p.83)、手動でファインダーのマット面を利用してピントを調整してください(☞ p.80)。

- ピントを合わせたいところに、白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低い被写体がある場合
- ピントを合わせたいところに、光を反射しにくい被写体がある場合
- ピントを合わせたいところに、細かな模様の被写体がある場合
- ファインダーの複数の測距点に、遠近のものが同時に存在する場合
- 非常に速い速度で移動している被写体
- 反射の強い光、強い逆光(周囲が特に明るい被写体)

メモ アクセサリーやレンズ使用時の注意

■ アクセサリーの使用について

以下のアクセサリーを使用するときには、手動でファインダーのマット面を利用してピントを調整してください(☞ p.80)。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」「ステレオアダプター」などを使用している場合
- 「接写リング」「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合

※オートフォーカスで、一般の偏光フィルターを使用するとオートフォーカスの精度が低下します。偏光フィルターを使用するときは、円偏光フィルターのご使用をお勧めします。

■ SMCペンタックスFソフト85mmF2.8の使用について

約1.5mより近距離でレンズの絞り値をF5.6～F32の範囲で使用すると、オートフォーカスが誤合焦することがあります。絞り値をF5.6～F32の範囲で使用するときは、いったん絞り値をF4.5に合わせてピントを調整後、フォーカスロック(☞ p.83)して希望の絞り値に合わせ直してから撮影してください。

メモ スナップインフォーカス撮影について

別売りのワンタッチケーブルスイッチCS-105やCS-130とF･FA以外のレンズ(オートフォーカス用でないレンズ)を組み合わせると、写したいものが構図内に来たときに、自動的にシャッターがきれるような撮影をできます。

①F･FA以外のレンズをセットします。
②フォーカスモードレバーを[AF.S]位置に合わせます。
③写したいものが通りそうな位置に、ピントをセットしておきます。
④別売りのワンタッチケーブルスイッチを使用して、シャッターボタンを押しきった状態にします。
写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

この場合、6つの測距点の内、中央下部の測距点1つのみが有効となります。

手動でピントを調整する

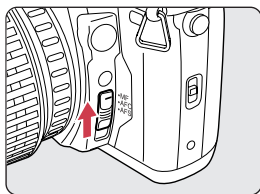
手動でピントを調整します。ピントを調整する方法は、ファインダー内の合焦マーク●を利用する方法と、ファインダー内のマット面を利用する方法があります。

◆ファインダー内の合焦マーク●を利用する

メモ

合焦マーク●を利用してピントを調整できるのは、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ(F1.2～F5.6)が目安です。それ以外のレンズは、マット面を利用してピントを調整してください。

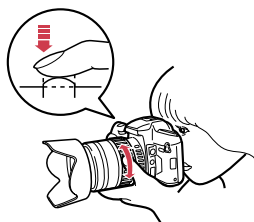
1 マニュアルフォーカス(MF)を設定する

①フォーカスモードレバーを[MF]位置に合わせます。

2 ピントを調整する

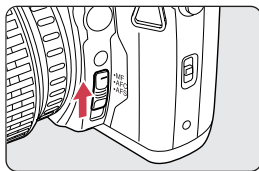
①ファインダー内で写したいものを確認して、シャッターボタンを半押しの状態にします。

②レンズの距離リングを左右に回して、ピントを調整します。

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯して「ピピッ」と電子音が鳴ります。

③ファインダー内で合焦マーク⬣が点灯していることを確認し、シャッターボタンを押しきります。

◆ファインダー内のマット面を利用する

1 マニュアルフォーカス(MF)を設定する

①フォーカスモードレバーを[MF]位置に合わせます。

2 ピントを調整する

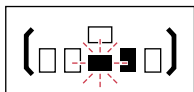
①ファインダー内で写したいものを確認し、レンズの距離リングを左右に回して、ピントを調整します。

ファインダー内の映像が最もはっきり見えるように調整します。

②ファインダー内の映像が最もはっきり見えるのを確認し、シャッターボタンを押しきります。

測距点を設定する

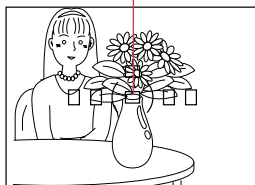
ファインダー内には、6つの測距点（オートフォーカスポイント）が表示されています。オートに設定（☞ p.28）していて、思った位置でピントが調整されないときには、測距点を任意に設定することができます。

任意に設定した測距点で測距できないとき（測距点が点滅）に、隣接する測距点で測距を行います（測距点が点灯）。ペンタックスファンクションで隣接する測距点を利用しないように設定することができます。☞ p.122

F･FA以外のレンズ使用時は、6つの測距点のうち中央下部の測距点1つのみが有効となります。

1 測距点を設定する

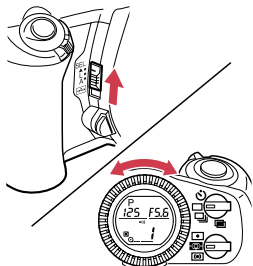
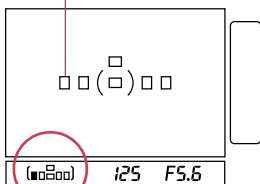
①ファインダーをのぞき、撮るものの位置を確認します。

ファインダー内の6つの測距点のどの位置でピントを調整しているのかは、測距点の点灯位置で確認します。

ピントが合っている測距点

測距点

人物にピントを合わせたいのに、ピントが中央で合ってしまう

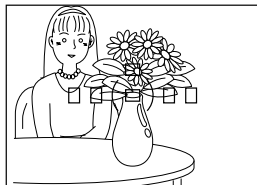
※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

②測距点切り替えレバーを[SEL・▲](SELECT)位置まで押し上げながら、Tv電子ダイヤルを回し、ピントを合わせたい位置の測距点を点灯させます。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

測距点をいったん中央に戻すときは、測距点切り替えレバーを[SELECT]位置まで押し上げながら、Tvオートボタンを押します。

③測距点切り替えレバーから指を離し、[L](LOCK)位置に合わせます。

2 測距点に合わせて撮影する

①ファインダーをのぞき、設定した測距点に写したいものが入るようにします。

②シャッターボタンを半押しの状態にします。

ファインダーの測距点表示エリアに、設定した測距点位置が点灯し、その位置でピントが調整されます。

③シャッターボタンを押しきります。

人物にピントが合います。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

3 設定した測距点を解除する

①測距点切り替えレバーを[A](AUTO)位置に合わせます。

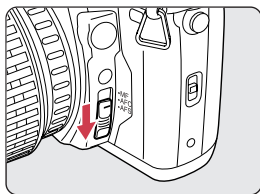
設定した測距点位置を解除し、カメラによる自動設定となります。

フォーカスロックで写真を撮る

オートフォーカスでピントを調整するときに、ピントを合わせたいものが測距点の範囲外にあるときは、写したいものにピントを合わせることができません。そんなときは、いったん測距点の範囲内で、写したいものにピントを合わせて固定し(フォーカスロック)、写真の構図を変えて撮影することができます。

1 オートフォーカスモードを設定する

①フォーカスモードレバーを[AF.S]位置に合わせます。

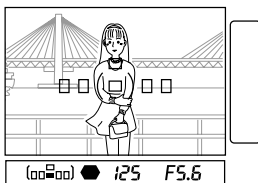
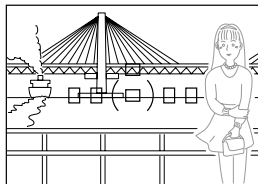
フォーカスロックで撮影するときは、フォーカスモードを[AF.S](オートフォーカス·シングル)に設定してください。

2 フォーカスロックで撮影する

①撮りたい写真の構図をファインダーで確認し、ピントを合わせたいものが、どの測距点にもかかっていない場合に、フォーカスロックで撮影します。

右の図では、人物にピントが合わずに背景にピントが合ってしまいます。

測距点が人物にかかっていないとピントが合わない

②ピントを合わせたい被写体をファインダーの中心にして、シャッターボタンを半押しの状態にします。

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯して「ピピッ」と電子音が鳴ります。

AFフレームが人物にかかるようにして、シャッターボタンを半押しの状態にします。

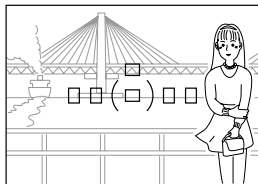
※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

メモ

- ピントを調整するときに、シャッターボタン半押しにする変わりに、AFボタンを押すことで、ピントを固定することもできます。
- 合焦マーク⬣が点灯している間は、ピントが固定(フォーカスロック)されます。
- フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。

③シャッターボタンを半押しにしたままで、撮りたい写真の構図に戻します。

人物にピントが合います

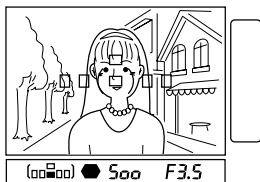
④ファインダー内の合焦マーク⬣が点灯していることを確認し、シャッターボタンを押しきります。

被写界深度について

写したいもののある部分にピントを合わせると、その前後のものにもピントが合う範囲があります。このピントが合う範囲を被写界深度といいます。
ここでは、被写界深度をファインダーで確認する方法や、ピント位置と絞りの関係について説明します。

被写界深度を確認する－プレビュー

撮影するときに、ピントの合っている範囲(被写界深度)を、ファインダー内で確認できます。

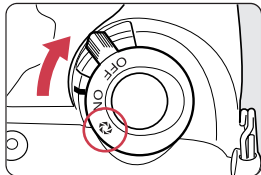
1 撮るものにピントを合わせる

①撮るものにピントを合わせます。

※ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

2 プレビューで被写界深度を確認する

①ファインダーを覗きながら、電源スイッチを[ON]位置から[⚙]位置に合わせ続けます。

現在ピントの合っている範囲が、ファインダー内で確認できます。

メモ

- 電源スイッチを [ ]位置に合わせている間、ファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれなくなります。
- プレビューは、プログラム自動露出や絞り優先自動露出などすべての露出モードで確認できます。
- ファインダーで確認したピントの範囲と実際の写真でのピントの範囲は、必ずしも一致しません。

メモ **絞りとピントの合う範囲について**

被写界深度(ピントの合う範囲)は、絞りを絞り込むほど深く(広い範囲にピントが合う)なります。

メモ

その他に、広角レンズほど、また写したいものが遠くなるほど被写界深度は深くなります。ズームレンズには、機構上被写界深度の目盛りは付いていません。

絞りとシャッター速度の効果について

写したいもの（被写体）の適正露出は、シャッター速度と絞り値の組み合わせで決ります。ただし、被写体の適正露出を決めるときのシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことで、写真の効果を変えることができます。

◆シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムにあたる時間を長くしたり、短くしてフィルムにあたる光の量を調整しています。

●シャッター速度を遅くする

- シャッターの開いている時間が長くなるため、写したいものが動いていれば、写したいものがぶれてしまいます。
- 川や滝、波などをシャッター速度を低速にして撮ることで、動感のある写真になります。

低速シャッター

●シャッター速度を速くする

- 動きのあるものでも動きを止めて写すことができます。
- 写したいものが動いてなくても、シャッターをきるときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐことができます。

高速シャッター

◆絞りの効果

絞りは、光がレンズを通るときの光束（光の太さ）を広くしたり、狭めたりしてフィルムにあたる光の量を調整します。

●絞りを開いて光束を広くする

- ピントを合わせたものに対して、その前後のもののボケが大きくなります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景のぼけを大きくし、人物だけが浮き上がる効果があります。

開放絞り側

●絞りを絞って光束を狭くする

- ピントの合う範囲が広がります。例えば、風景の中で人物を撮影すると、ピントを合わせた人物の前後にある風景までピントを合わせることができます。

小絞り側

STEP UP
ステップアップ

ストロボを使用して撮影する

内蔵ストロボの使用について

内蔵ストロボを使用するときのストロボ発光モードの設定と、内蔵ストロボを使用するときに知っておきたい事項について説明します。

発光モードを設定する

発光モードを設定することで、撮影するときに内蔵ストロボが次のように発光されます。

強制発光モード…撮影するときに必ず発光します（☞ p.32）。

赤目軽減モード…撮影する直前に小光量のストロボ発光を行い、瞳孔を小さくしてからストロボ撮影を行うことで、目が赤く写るのを目立たなくすることができます。

自動発光モード…プログラム自動露出に設定しているときに、暗い場合や逆光などストロボ発光が必要なときにだけ、自動的に発光します。

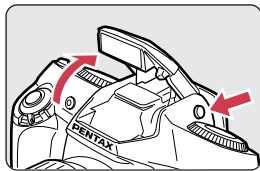
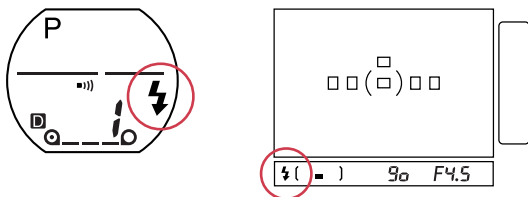
メモ

- 内蔵ストロボを使用するときは、レンズフードは使用しないでください。ストロボの光を遮ることがあります。
- 外付けストロボでも同様に自動発光が可能です。

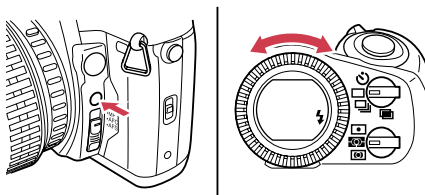
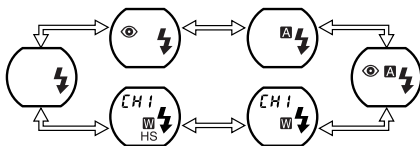
1 内蔵ストロボを使用できる状態にする

①**電源が入っていることを確認し、ストロボボタンを押します。**

ストロボが跳ね上がり、ストロボの自動充電が開始されます。

電子ダイヤルディスプレーとファインダー内に⚡が表示されると、内蔵ストロボが使用できます。

※ ファインダー内の表示比率は、実際のものと異なります。

2 発光モードを設定する

①側面ボタンを押しながら、Tv電子ダイヤルを回します。

電子ダイヤルディスプレーの発光モードは以下のように表示されます。

自動発光 A は、プログラム自動露出でのみ選択可能です。

メモ 発光モードの表示について

電子ダイヤルディスプレーに表示される発光モードにより、内蔵ストロボは次のように発光します。

表示されるマーク	発光モード	ストロボの発光状態
⚡	強制発光	シャッターをきると常にストロボが発光します。
⚡+👁	強制発光+赤目軽減	ストロボを強制発光で赤目軽減機能が働きます。*1
⚡+A	自動発光	プログラム自動露出に設定している場合に、ストロボ発光が必要なときだけ自動で発光します。自動発光は、測光方式の設定により次のような条件で自動発光します。*2 **分割測光**………暗い場合と逆光の場合 **中央重点測光**…暗い場合のみ **スポット測光**…暗い場合のみ
⚡+👁+A	自動発光+赤目軽減	自動発光モードでストロボが発光するときに赤目軽減機能が働きます。*1、*2
W	ワイヤレス	専用のストロボでワイヤレス機能を使用するときに設定します。☞ p.102
W+HS	ワイヤレス+ハイスピードシンクロ	専用のストロボを使用して、ハイスピードシンクロ発光するときに設定します。☞ p.101

＊1：赤目軽減機能とAF360FGZなどのストロボのスレーブ機能やワイヤレス機能を組み合わせると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光します。スレーブ機能を使用するときは、赤目軽減機能は使用しないでください。

＊2：自動発光モードはプログラム自動露出以外では設定できません（☞ p.60）。

メモ　赤目を軽減するには

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行ったときに、ストロボの光が目の網膜に反射して目が赤く写る現象です。赤目を完全に防ぐことはできませんが、以下の方法で赤目を軽減できます。

- できるだけ周りを明るくして撮影する
- ズームレンズを使用するときは、広角側にして近距離で撮影する
- 外付けストロボを使用するときは、ストロボをできるだけカメラから離す

内蔵ストロボについて、もっと知りたい方へ

内蔵ストロボを使用するときに、絞り値からストロボ撮影の可能距離を計算する方法やF･FAレンズとの適合性などについて説明します。

◆絞り値からストロボ撮影可能距離を計算する

撮影時に選択されている絞り値を確認し、以下の方法で撮影距離を計算してください。

ただし、0.7m以下の距離では使用できません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレ、露出オーバーの原因になります。

遠距離の目安　　ガイドナンバー÷使用絞り値
近距離の目安　　遠距離側目安÷5＊1

＊1：割り算に使用した数値「5」は、内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用されます。

ガイドナンバーは、使用するフィルム感度(ISO)によりおよそ以下のようになります。

フィルム感度(ISO)	ガイドナンバー
ISO25	6
ISO50	8.5
ISO100	12
ISO200	17
ISO400	24

例：ISO100のフィルムを使用し、絞り値F2.8でストロボ撮影するときは、以下のように計算します。

遠距離の目安　ガイドナンバー[12]÷F2.8＝約4.3m

近距離の目安　4.3÷5＝約0.9

したがって、約0.9m〜4.3mの範囲でストロボが使用できます。

メモ **撮影距離から絞り値を計算するには**

撮影距離から絞り値を計算するときは、以下のように計算します。

ガイドナンバー÷撮影距離＝絞り値

計算で出た数値が「3」のように、レンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さいほう[2.8]に設定します。

◆内蔵ストロボ使用時のF・FAレンズ適合性について

内蔵ストロボを使用して撮影するときのF･FAレンズの適合性について説明します。

メモ

ストロボ撮影に不適切なF･FAレンズを使用した場合、充電完了後にシャッターボタンを半押しにすると、電子ダイヤルディスプレーやファインダー内の⚡が点滅して警告します(☞p.31、33)。
警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円のケラレが出ますのでご注意ください。

内蔵ストロボ使用時のF･FAレンズ適合表

○:使用可　△:記載条件でケラレが発生する場合あり　×:ケラレが発生する

レンズ名	適　合
F17～28mmF3.5～4.5	×
FA20～35mmF4AL	△ 焦点距離24mm未満でケラレが発生する場合あり
FA24～90mmF3.5～4.5AL(IF)	△ 焦点距離28mm未満でケラレが発生する場合あり
FA★28～70mmF2.8AL	△ 焦点距離35mm未満/焦点距離40mmで 撮影距離1m以下でケラレが発生する場合あり
FA28～70mmF4AL	○
FA28～80mmF3.5～5.6	○
FA28～90mmF3.5～5.6	○
FA28～105mmF3.2～4.5AL(IF)	○
FA28～105mmF4～5.6(IF)	○
FA28～200mmF3.8～5.6AL(IF)	△ 焦点距離28mm/焦点距離35mmで 撮影距離1m以下でケラレが発生する場合あり
F･FA35～80mmF4～5.6	○
FA70～200mmF4～5.6	○
FA★80～200mmF2.8ED(IF)	○
F･FA80～200mmF4.7～5.6	○
FA80～320mmF4.5～5.6	○

レンズ名	適　　合
F･FA100～300mmF4.5～5.6	○
FA100～300mmF4.7～5.8	○
FA★250～600mmF5.6ED(IF)	×
FA20mmF2.8	×
FA24mmF2AL(IF)	○
FA28mmF2.8AL	○
FA31mmF1.8AL Limited	○
FA35mmF2AL	○
FA43mmF1.9Limited	○
FA50mmF1.4	○
FA50mmF1.7	○
FA77mmF1.8Limited	○
FA★85mmF1.4(IF)	○
FA135mmF2.8(IF)	○
FA★200mmF2.8ED(IF)	○
FA★300mmF2.8ED(IF)	×
FA★300mmF4.5ED(IF)	○
FA★400mmF5.6ED(IF)	○
FA★600mmF4ED(IF)	×
FAマクロ50mmF2.8	○
FAマクロ100mmF2.8	○
FAマクロ100mmF3.5	○
FA★マクロ200mmF4ED(IF)	○
FAソフト28mmF2.8	○
FAソフト85mmF2.8	○

外付けストロボの使用について

カメラの内蔵ストロボで光量が不足するときは、別売りの外付けストロボを利用してください。TTLオートで撮影する方法やAF360FGZを使用してワイヤレス機能で撮影したり、ハイスピードシンクロで撮影する方法について説明します。
ただし、ご使用の外付けストロボにより使用できる機能が異なりますので、以下の説明を参照の上ご使用ください。

ストロボの機能一覧

内蔵ストロボと別売りの外付けストロボで使用可能な機能について説明します。ご使用のストロボの機種を確認の上ご使用ください。

カメラの機能	A	B	C	D	E	F
赤目軽減機能が使用できる	○	○	○	×	○*1	×
ストロボ自動発光ができる	○	○	○	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○	○	○	○
プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる	○	○	○	○	○*2	○*2
ファインダー内でオートチェックできる	×	○	○	○	×	×
TTLオートストロボ撮影ができる ☞ p.98	○	○	○	○	○*3	×
P-TTLオートストロボ撮影ができる ☞ p.98	×	○	×	×	×	×
低速シンクロ撮影ができる ☞ p.107	○	○	○	○	○	○
AF補助光が使用できる	○	○	○	○	×	×
後幕シンクロ撮影ができる*4	○*5	○	○	○	×	×
光量比制御モードで撮影ができる*6	×	○	○	×	×	×
スレーブ機能が働く	×	○	○	×	×	×
マルチストロボが働く	×	×	○*7	×	×	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○	×	×	×	×
ワイヤレスで撮影ができる	×	○	×	×	×	×

A：内蔵ストロボ
B：AF360FGZ
C：AF500FTZ、AF330FTZ
D：AF400FTZ、AF240FT
E：AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA
F：AF200S、AF160、AF140

＊1：AF280T、AF400Tで、ファインダーオートチェックをOFFにし、TTLオートに設定した場合のみ使用できます。
＊2：**E**(AF200SAを除く)のストロボで、MS(マニュアルシンクロ)、M(マニュアル)で使用するときや**F**のストロボを使用するときは、絞り優先自動露出またはマニュアル露出、バルブで撮影してください。プログラム自動露出またはシャッター優先自動露出では、絞り値が変化しますので使用できません。
＊3：AF200SAでは、TTLオートストロボ撮影できません。
＊4：シャッター速度は、1/90秒以下になります。
＊5：**B**または**C**、**D**のストロボと組み合わせて後幕シンクロが可能です。
＊6：シャッター速度は、1/60秒以下になります。
＊7：AF330FTZは不可。

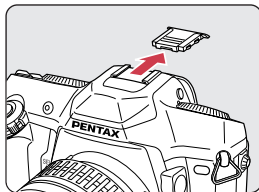
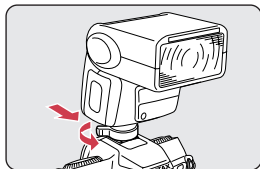
P-TTLオートで撮影する

P-TTLオートでは、撮影直前にストロボをプリ発光させ、6分割で測光するため、より正確な制御が可能です。ワイヤレスでもP-TTLオートが可能です。

P-TTLオートはAF360FGZとの組み合わせでのみ可能です。

1 ストロボをセットする

①カメラのホットシューカバーFLを取り外します。

取り外したホットシューカバーは、ストラップのポケットに入れておくと便利です(☞ p.14)。

②ストロボを取り付けます。

2 P-TTLオートに設定する

①ストロボの電源スイッチを入れます。

②ストロボの発光モードをP-TTLオートに設定します。

メモ

- AF360FGZ以外のストロボではTTLオートになります。
- 操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。

3 撮影する

①ストロボの充電完了を確認します。

②ピントを合わせて撮影します。

メモ

- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。
- 外付けストロボでも自動発光は働きます。写すものが明るいとストロボは発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。

ハイスピードシンクロモードで撮影する

AF360FGZを使用することで、1/180秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。ハイスピードシンクロは、ストロボをカメラに取り付けても、ワイヤレスでも使用できます。

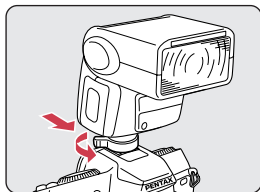
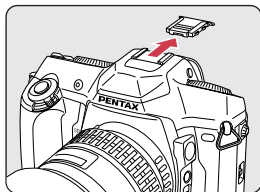
◆ストロボをカメラに取り付けて撮影する

1 ストロボをセットする

①カメラのホットシューカバーFLを取り外します。

取り外したホットシューカバーは、ストラップのポケットに入れておくと便利です(☞ p.14)。

②ストロボを取り付けます。

③露出モードをプログラム自動露出以外にします。

2 ストロボ側をHS(ハイスピードシンクロ)に設定する

①ストロボの発光モードをHS(ハイスピードシンクロ)に設定します。

操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。

3 ハイスピードシンクロで撮影する

①ストロボの充電完了を確認します。

②ピントを合わせて撮影します。

メモ

- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。
- シャッター速度が1/180秒を超えた場合のみハイスピードシンクロとなります。
- 露出モードがプログラム自動露出ではハイスピードシンクロはできません。

◆ストロボをワイヤレスで撮影する

1 ストロボをカメラから離してセットする

①ストロボを発光させたい位置に固定します。

②ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」にします。

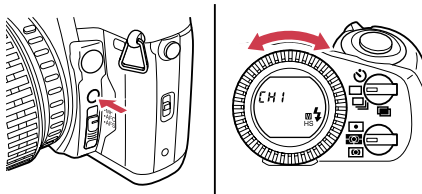
③ワイヤレスモードをS(スレーブ)にします。

メモ

- 操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。
- ワイヤレス制御については102ページを参照してください。

2 カメラ側をHS(ハイスピードシンクロ)に設定する

①ストロボボタンを押して、内蔵ストロボを使用できる状態にします。

②側面ボタンを押しながら、Tv電子ダイヤルを回し、Ⓦ HSを表示します。

③内蔵ストロボと外付けストロボの充電完了を確認します。

④ピントを合わせて撮影します。

- 内蔵ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。
- シャッター速度が1/180秒を超えた場合のみハイスピードシンクロとなります。

ワイヤレスモードで撮影する

AF360FGZを使用することで、カメラとストロボをコードで接続しないで、ストロボ撮影することができます。ハイスピーN/麻塔N口の機能も、ワイヤレスでも使用できます(☞ p.101)。

1 ストロボをカメラから離してセットする

①ストロボを発光させたい位置に固定します。

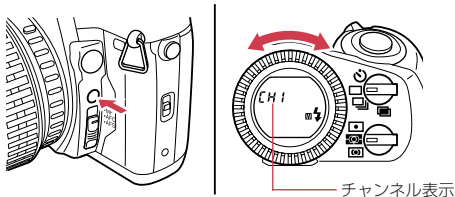
②ストロボの電源スイッチを「WIRELESS」にします。

③ワイヤレスモードをS(スレーブ)にします。

操作方法については、外付けストロボに付属の使用説明書を参照してください。

2 カメラ側をワイヤレスに設定する

①ストロボボタンを押して、内蔵ストロボを使用できる状態にします。

②側面ボタンを押しながら、Tv電子ダイヤルを回しⓌを表示します。

③内蔵ストロボと外付けストロボの充電完了を確認し、撮影します。

- 内蔵ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押しにしたときに、ファインダー内に⚡が点灯します。
- 内蔵ストロボの代わりに、AF360FGZをカメラに直接取り付けても、ワイヤレスモードが可能です。

メモ ワイヤレスストロボ制御について(P-TTL撮影)

AF360FGZをワイヤレスで使用するときには、ストロボが発光されるまでに内蔵ストロボとAF360FGZ間で以下のような情報伝達が行われています。

① シャッターボタンを押しきる

② 内蔵ストロボが小光量発光(カメラ側の発光モードを伝達)

③ 外付けストロボが小光量発光(被写体の状態を確認)

④ 内蔵ストロボが小光量発光(発光量を外付けストロボに伝達)

＊HS(ハイスピードシンクロ)が設定されている場合は、発光時間を伝達するためにこの後内蔵ストロボがもう一度小光量発光します。

⑤ 外付けストロボが本発光

ペンタックスファンクションのNo.10で、内蔵ストロボを外付けストロボへの情報伝達用としてだけ使うか、露出に影響を与える発光もするかを選択できます。

ワイヤレスストロボ制御のチャンネル設定について

ワイヤレス制御を行う場合、カメラとAF360FGZのチャンネル(例:CH1)を合わせる必要があります。合わせ方は、AF360FGZをカメラに取り付け、カメラの電源を入れた後、シャッターボタンを半押しすると、AF360FGZのチャンネルがカメラ側に設定されます。

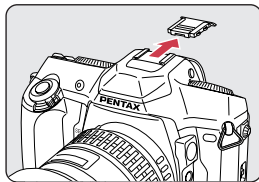
内蔵ストロボと同時に使用する

内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する方法について説明します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用するには、以下の別売りアクセサリーが必要です。

- ホットシューアダプターFG
- オフカメラシューアダプターF
- 延長コードF5P

1 ストロボを取り付ける

①カメラのホットシューカバーFLを取り外します。

取り外したホットシューカバーは、ストラップのポケットに入れておくと便利です(☞ p.14)。

②カメラにホットシューアダプターFGを取り付けます。

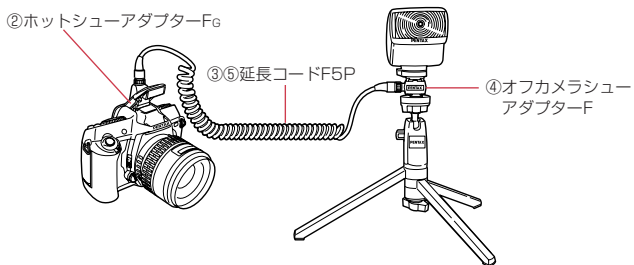
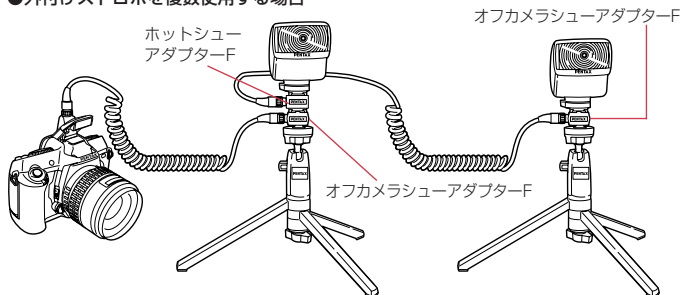
③ホットシューアダプターFGに延長コードF5Pを取り付けます。

④オフカメラシューアダプターFを三脚などで固定します。

⑤オフカメラシューアダプターFに延長コードF5Pを取り付けます。

⑥オフカメラシューアダプターFの上にストロボを取り付けます。

⑦内蔵ストロボを上げます。

AF500FTZでは、オフカメラシューアダプターFを使用しなくても、直接延長コードF5Pをつなぐことができます。

●外付けストロボを複数使用する場合

光量比制御シンクロで撮影する

内蔵ストロボや複数のストロボを組み合わせることで、ストロボの光量の違いを利用した撮影（光量比制御シンクロ撮影）ができます。

光量比制御シンクロで撮影できるストロボは、AF360FGZ、AF330FTZ、AF500FTZ、または内蔵ストロボです。

◆内蔵ストロボと外付けストロボを組み合わせる場合

1 外付けストロボの準備をします

①外付けストロボをカメラから離して設置します。

- ホットシューグリップを使用するとTTL調光が正しく働かないことがあります。
- 接続方法は104ページをご覧ください。

②ストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定します。

設定方法については、ストロボに付属の使用説明書を参照してください。

2 撮影する

①内蔵ストロボを上げます。

②内蔵と外付けストロボの充電完了を確認します。

③ピントを合わせて撮影します。

- 光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2（複数の場合は合計）になります。
- 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限は1/60秒になります。

◆複数の外付けストロボを組み合わせる場合（内蔵ストロボなし）

1 ストロボの準備をします

①外付けストロボをカメラから離して設置します。

メモ

- ホットシューグリップを使用するとTTL調光が正しく働かないことがあります。
- 接続方法は104ページをご覧ください。

②必要なストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定します。

光量比制御モードに設定したストロボの光量が「2」に対して、設定していないストロボの光量は「1」で制御されます。
設定方法については、ストロボに付属の使用説明書を参照してください。

2 撮影する

①すべてのストロボの充電完了を確認します。

②ピントを合わせて撮影します。

メモ　外付けストロボの多灯撮影について

2個以上のストロボを同時使用する場合の使用上の注意事項について説明します。

●「ストロボの機能一覧」（☞ p.97）を参照して以下の組み合わせで使用してください。

- 同じタイプ（**B**～**F**）どうしを組み合わせて使用してください。
- 違うタイプを使用する場合は、**C**と**D**、あるいは**E**と**F**と組み合わせて使用してください。

●内蔵ストロボは、どのタイプのストロボとも組み合わせて使用できます。

低速シンクロで撮影する

夕景などを背景に人物を撮影するときに、低速シンクロを利用すると人物と背景をきれいに撮影することができます。低速シンクロ撮影は、内蔵ストロボまたはどのタイプの外付けストロボでも撮影することができます。

低速シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。カメラぶれを防ぐため、カメラを三脚などで固定してください。

◆マニュアル露出で撮影する

1 **ストロボを準備する**

①内蔵ストロボを使用するときは、ストロボボタンを押してストロボを上げます。

外付けストロボを使用するときは、外付けストロボの電源を入れます。

2 **マニュアル露出に設定する**

①レンズの絞りオートロックボタンを押しながら回し、絞り値を設定します。

②Tv電子ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。

電子ダイヤルディスプレーに「M」(マニュアル)と設定したシャッター速度が表示されます(☞ p.65)。

ストロボの充電完了と適正露出を確認します。

③ピントを合わせて撮影します。

◆シャッター優先自動露出で撮影する

1 シャッター優先自動露出に設定する

①レンズの絞りオートロックボタンを押しながら回し、[A]位置に合わせます。

②Tv電子ダイヤルを回して1/180秒以下のシャッター速度を設定します。

2 ストロボを準備する

手順1と2を逆にすると、背景が適正露出にならないことがあります。

①内蔵ストロボを使用するときは、ストロボボタンを押してストロボを上げます。

外付けストロボを使用するときは、外付けストロボの電源を入れます。

3 ピントを合わせて撮影します

ストロボの使用について

ストロボを使用するときの注意事項について説明します。

◆内蔵ストロボと専用ストロボの使用について

●内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていると内蔵ストロボも後幕シンクロになります。

●撮影するときは、各ストロボの充電が完了してからシャッターをきってください。

◆他社製ストロボの使用について

●他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

●スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆になっているものがあります。このタイプでは、本カメラと組み合わせてもストロボが発光しません。詳しくは、ストロボのメーカーにご相談ください。

●大型ストロボと組み合わせて使用するときは、後幕によるケラレを防ぐため、同調速度より一段低いシャッター速度でのご使用をお勧めします。

付録

ファンクションキーの機能

ペンタックスファンクション

本機には、使用目的に合わせてカメラの各機能を設定できる19種類のペンタックスファンクション機能があります。

● 電子音の設定		
[F1]	電子音の有無を設定	☞ p.116
● 露出に関する設定		
[F2]	プログラムライン（ノーマル/高速優先/深度優先/MTF）を設定	☞ p.117
[F3]	オートブラケット撮影時の撮影枚数を設定	☞ p.119
[F4]	オートブラケット撮影時の撮影順序を設定	☞ p.120
[F5]	分割測光時にピント調整した位置に応じて露出を自動調整するかどうかを設定	☞ p.120
[F6]	AFボタンにAEロックの機能を持たせるか、持たせないかを設定	☞ p.121
[F7]	セットされたフィルムの感度を自動設定するか、しないかを設定	☞ p.121
● オートフォーカスの設定		
[F8]	任意に設定した測距点でピント合せができないときに、隣接する測距点に切り替えるかどうかを設定	☞ p.122
● ストロボの設定		
[F9]	内蔵ストロボの充電が完了する前にシャッターをきれるようにするかどうかを設定	☞ p.122
[F10]	ワイヤレスモード設定時、内蔵ストロボをストロボとして発光させるか、ワイヤレス用のコントローラとして発光させるかを設定	☞ p.123
[F11]	AF360FGZでワイヤレスモード設定時、照明ボタンを押したときの内蔵ストロボの発光方法を設定	☞ p.123

● フィルム巻き戻しの設定		
[F12]	フィルムを巻き戻したときのリーダーの状態を設定	☞ p.124
[F13]	フィルムが終了したときの巻き戻しを、自動か手動で行うかを設定	☞ p.125
● セルフタイマーの設定		
[F14]	セルフタイマー撮影時のシャッターがきれるまでの時間を設定	☞ p.125
● 撮影データ印字の設定		
[F15]	撮影データを印字するときの濃さを設定	☞ p.126
● 操作ボタン/ダイヤルの設定		
[F16]	シャッターボタンの半押し状態で、ピント合わせをするか、しないかを設定	☞ p.126
[F17]	TV電子ダイヤルの設定方向を時計回りと反時計回りのどちらで数値を進めるのかを設定	☞ p.127
● マウント指標ランプの設定		
[F18]	マウント指標ランプの点灯を有効にするか、無効にするかを設定	☞ p.127
● リモコンの設定		
[F19]	バッテリーグリップBG-10使用時のリモコンの作動時間を設定	☞ p.128

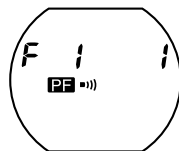
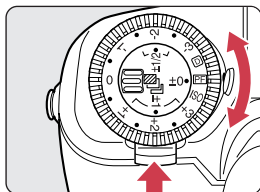
付録

設定の基本操作について

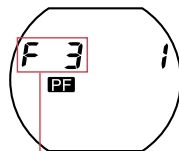
ペンタックスファンクション機能を設定するときの基本操作について説明します。

1 ファンクションNo.(選択項目)を表示する

①**露出補正ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[PF]位置に合わせます。**

電子ダイヤルディスプレーに[PF]が表示されます。

②**Tv電子ダイヤルを回して、設定するファンクションNo.(選択項目)を表示します。**

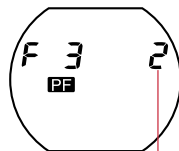
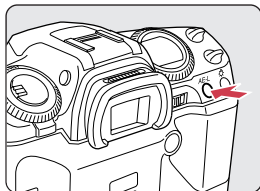
電子ダイヤルディスプレーにファンクションNo.が表示されます。

例：オートブラケット撮影時の撮影枚数を設定する場合

ファンクションNo.(選択項目)

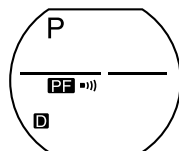
2 設定番号を表示する

①AEロックボタンを押して、設定番号(設定内容)を表示します。

電子ダイヤルディスプレーに設定番号が表示されます。

画面の設定内容は、ファンクションNo.[F3](オートブラケッティング撮影時の撮影枚数を設定する項目)を選択し、2(撮影枚数2枚)を選択しています。

設定番号(設定内容)

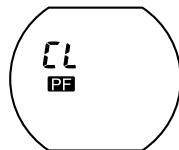
②露出補正ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[0]位置に合わせます。

初期設定と異なる設定をした場合は、[PF]が表示されます。

設定をすべて設定前の状態に戻すには

設定したペンタックスファンクション機能をすべて初期状態(設定番号すべて1)に戻すには、以下の操作にしたがってください。

①露出補正ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[PF]位置に合わせます。

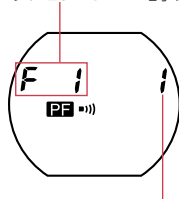
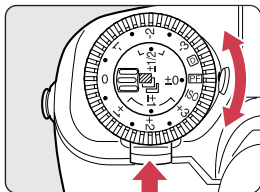
②Tvオートボタンを2秒以上押し続けます。
電子ダイヤルディスプレーに[CL]が表示され、設定したペンタックスファンクション機能をすべて設定前の状態(初期状態)に戻します。

付録

③露出補正ロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、[0]位置に合わせます。電子ダイヤルディスプレーから[PF]が消去され、ペンタックスファンクション機能が初期状態になっていることを表わします。

ペンタックスファンクション機能を設定する

ペンタックスファンクションNo.順に、各選択項目と設定内容について説明します。
ペンタックスファンクションNo.の表示方法や設定番号の表示方法については「設定の基本操作について」を参照してください。

①露出補正ダイヤルを[PF]位置に合わせる

②ファンクションNo.…Tv電子ダイヤルで変更

③設定番号(設定内容)…AEロックボタンで変更

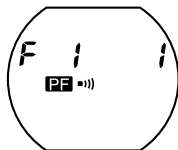
◆[F1]電子音の有無を設定する

ピントが合ったときの合焦音や、AEロック、セルフタイマー、フィルム枚数30での残量警告の電子音を鳴らすかどうかを設定します。

●ファンクションNo.:[F1]

●設定番号:

[1]…電子音を鳴らす

[2]…電子音を鳴らさない

◆[F2]プログラムラインを設定する

通常の露出設定に対してシャッター速度をより高速にするのか、絞りをより絞り込むのか、使用FAレンズの性能が最も良くなる絞り値を選択するのかを設定します。

●ファンクションNo.:[F2]

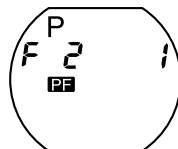
●設定番号:

[1]…通常プログラムライン

[2]…シャッター速度をより高速に設定
　　(高速優先プログラムライン)

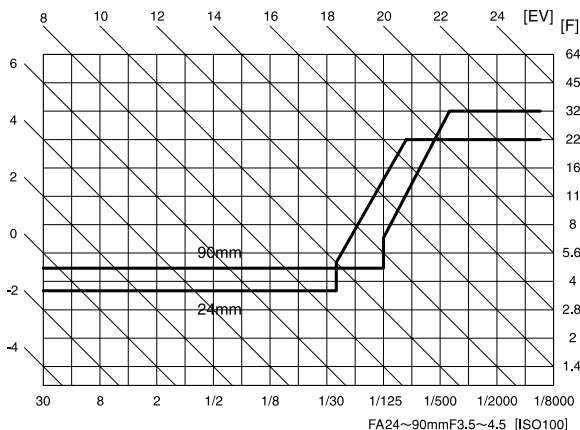
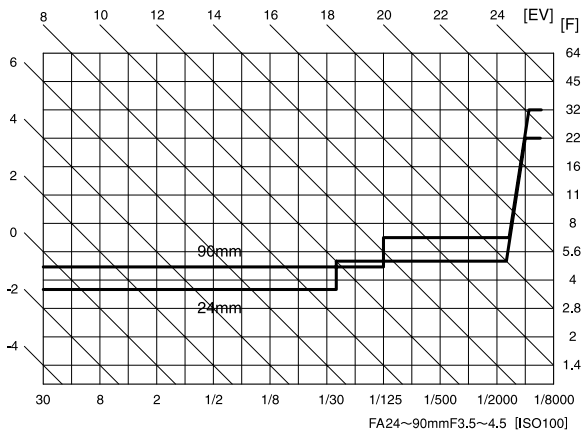
[3]…絞りをより絞り込んで設定
　　(深度優先プログラムライン)

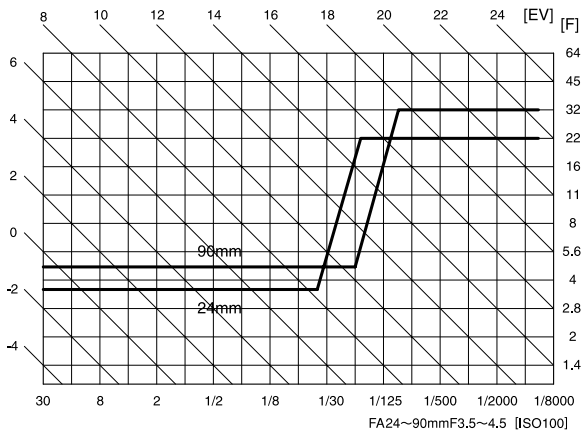
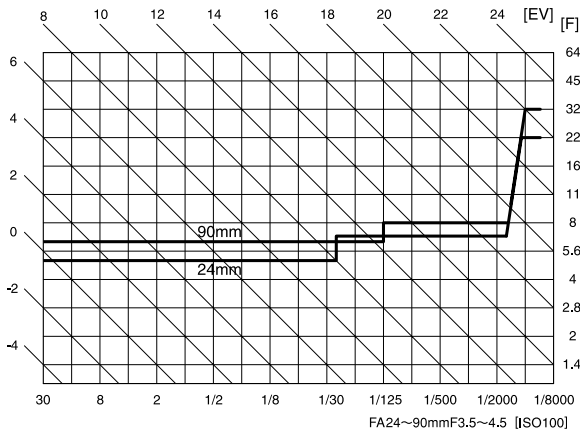
[4]…使用FAレンズの性能が最も良くなるように設定
　　(MTF優先プログラムライン*)

＊レンズによって線図が異なり、FAレンズ内にその情報を記録。

FA24～90mmF3.5～4.5レンズでの各プログラムラインは以下の通りです。

[1]通常プログラムライン

FA24～90mmF3.5～4.5［ISO100］

付録

[2]高速優先プログラムライン

[3]深度優先プログラムライン

[4]MTF優先プログラムライン

◆[F3]オートブラケット撮影時の撮影枚数を設定する

オートブラケット撮影するときの撮影枚数を設定します。

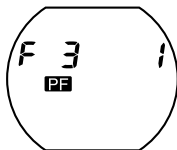
●ファンクションNo.:[F3]

●設定番号:

[1]…3枚([補正なし]→[アンダー]→[オーバー]の3枚)

[2]…2枚([補正なし]→[アンダー]の2枚)

[3]…5枚([補正なし]、[アンダー]、[オーバー]、[2段階アンダー]、[2段階オーバー]の5枚)

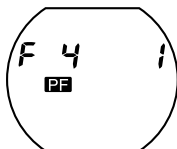
＊ファンクションNo.:[F4]の設定により、撮影順序は変わります。

◆[F4]オートブラケット撮影時の撮影順序を設定する

オートブラケット撮影するときに、適正、オーバー、アンダー露出の撮影順序を設定します。

●ファンクションNo.:[F4]

●設定番号:

設定番号	撮影枚数3枚	撮影枚数2枚	撮影枚数5枚
[1]	[±0]→[−]→[+]	[±0]→[−]	[±0]→[−]→[+]→[−−]→[++]
[2]	[−]→[±0]→[+]	[−]→[±0]	[−−]→[−]→[±0]→[+]→[++]
[3]	[+]→[±0]→[−]	[+]→[±0]	[++]→[+]→[±0]→[−]→[−−]

メモ

- 撮影枚数は、ファンクションNo.:[F3]の設定により異なります。
- 上記の「±0」は補正なし、「−」はアンダー露出(2つある場合は2倍の補正値)、「+」はオーバー露出(2つある場合は2倍の補正値)を表わしています。

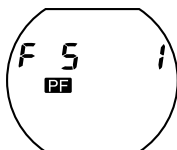
◆[F5]測距点と露出合せの関連付けを設定する

分割測光を設定しているときに、ピント調整した測距点に応じて露出を自動調整するかどうかを設定します。

●ファンクションNo.:[F5]

●設定番号:

[1]…露出の自動調整はしない

[2]…露出の自動調整をする

◆[F6]AFボタンを押したときの機能を設定する

AFボタンを押したときにピントだけを調整するか、AEロックボタンの機能を持たせるかを設定します。

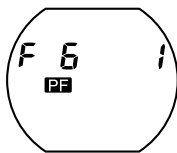
●ファンクションNo.:[F6]

●設定番号:

[1]…ピントのみを調整する

[2]…ピント調整と同時にAEロックを行う

メモ

設定番号[2]が選択された場合、カメラのAEロックボタンでのAEロックはできなくなります。

◆[F7]フィルム感度の設定方法を設定する

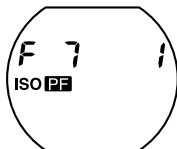
セットされたDXフィルムの感度を自動設定するか、しないかを設定します。

●ファンクションNo.:[F7]

●設定番号:

[1]…セットされたDXフィルムの感度を自動設定する

[2]…セットされたDXフィルムの感度を自動設定しない*

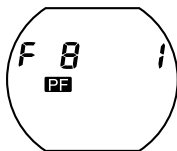
＊任意にフィルム感度を設定してください(☞ p.38)。

◆[F8]測距点位置の測距状態を設定する

任意に設定した測距点位置で測距できないときに、隣接する測距点で測距を行うかどうかを設定します。

●ファンクションNo.:[F8]

●設定番号:

[1]…設定した測距点に隣接する測距点で測距を行う

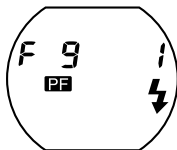
[2]…設定した測距点に隣接する測距点で測距を行わない

◆[F9]内蔵ストロボ充電中のレリーズ状態を設定する

内蔵ストロボの充電が完了する前に、シャッターがきれるようにするかどうかを設定します。

●ファンクションNo.:[F9]

●設定番号:

[1]…充電中はシャッターがきれない

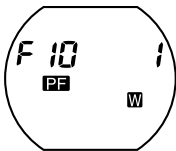
[2]…充電中でもシャッターがきれる

◆[F10]ワイヤレス設定時の内蔵ストロボの発光状態を設定する

AF360FGZでワイヤレスモード設定時、内蔵ストロボをストロボとして発光させるか、ワイヤレス用のコントローラとして発光するかどうかを設定します。

●ファンクションNo.:[F10]

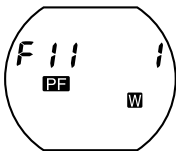
●設定番号：
[1]…内蔵ストロボをストロボとして発光する
[2]…内蔵ストロボをコントローラーとして発光する

メモ

内蔵ストロボをコントローラーとして使用すると、内蔵ストロボは露出情報をワイヤレス専用ストロボに伝達するだけで、実際に露出に影響を与える発光はしません。

◆[F11]ワイヤレス設定時の照明ボタンの機能を設定する

AF360FGZをカメラに取り付け時または、カメラから離した状態でのワイヤレスモード設定時、照明ボタンを押したときにストロボを発光させないようにするか、AF360FGZをテスト発光あるいは、モデリング発光させるかを設定します。

●ファンクションNo.：[F11]
●設定番号：
[1]…ストロボを発光させない
[2]…照明ボタンをテスト発光に使用する（1回発光）
[3]…照明ボタンをモデリング発光に使用する（連続発光）

付録

◆ [F12]フィルムの巻き戻し状態を設定する

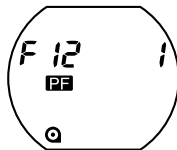
フィルムを巻き戻したときに、フィルムを完全に巻き取るか、リーダーを残した状態にするか、リーダーを残して再びそのフィルムの未撮影部分から撮影できるようにするかどうかを設定します。

●ファンクションNo.：[F12]

●設定番号：

[1]…フィルムを完全に巻き取る

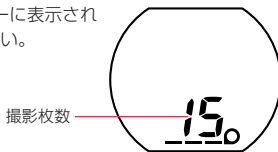
[2]…リーダーを残して巻き取る

[3]…リーダーを残して未撮影部分から撮影できるようにする

メモ 設定番号[3]について

設定番号[3]を設定すると、使用途中で巻き戻したフィルムを、指定したコマ数まで自動で送り再度撮影することができます。

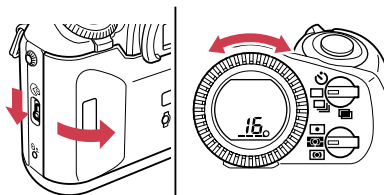
①ファンクションNo. [F12]で、設定番号[3]を設定します。

②フィルムを使用途中で巻き戻して取り出します(☞ p.37)。

＊巻き戻すときに、電子ダイヤルディスプレーに表示されていた撮影枚数を必ず控えておいてください。

撮影枚数

③別のフィルムで撮影をします。

④途中で取り出したフィルムを再度使うときは、裏ぶたの開いた状態で、Tvオートボタンを押しながらTv電子ダイヤルを回して、フィルムの撮影枚数を表示させせます。

＊撮影の重なりを防ぐため、1～2コマ分先の撮影枚数を表示させてください。

⑤フィルムをセットし、裏ぶたを閉じます。
撮影枚数で指定したコマまで、自動でフィルムが送られます。

◆[F13]フィルムの巻き戻し方法を設定する

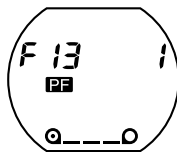
フィルムが終了したときに、自動で巻き戻すか巻き戻さないかを設定します。

●ファンクションNo.:[F13]

●設定番号:

[1]…フィルムを使い終わった時点で自動で巻き戻す

[2]…フィルムを使い終わっても巻き戻さない

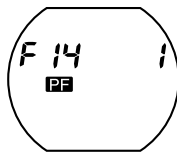
＊巻き戻しボタンを押して巻き戻してください（☞ p.37）。

◆[F14]セルフタイマーの時間を設定する

セルフタイマー撮影時に、シャッターボタンを押しきってからシャッターがきれるまでの時間を12秒にするか、2秒(ミラーアップ機能付)にするかを設定します。

●ファンクションNo.:[F14]

●設定番号:

[1]…12秒後にシャッターがきれる

[2]…ミラーアップの状態で2秒後にシャッターがきれる

メモ　ミラーアップ機能について

通常の撮影では、シャッターがきれるときにミラーをアップします。ミラーアップ機能では、ミラーアップによるぶれを軽減するために、あらかじめミラーをアップした状態でシャッターがきれます。ミラーアップで撮影するときは、以下の操作にしたがってください。

①ファンクションNo.[F14]で、設定番号[2]を設定します。

②撮影するときは、ドライブレバーを(セルフタイマー撮影)位置に合わせます。

③撮影するものにピントを合わせ、シャッターボタンを押しきります。
ミラーをアップした状態で2秒後にシャッターがきれます。ミラーアップ直前の露出値でAEロックされます。

付録

◆[F15]撮影データ印字時の濃度を設定する

撮影データを印字するときに、印字する濃度の調整方法を設定します。

●ファンクションNo.:[F15]

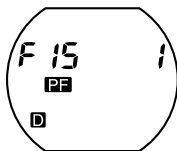
●設定番号:

[1]…セットされているフィルム感度に合わせて自動で設定

[2]…印字濃度を薄くする(高感度フィルム向)

[3]…印字濃度を普通にする

[4]…印字濃度を濃くする(低感度フィルム向)

メモ

- 設定番号[2]、[3]、[4]では[4]が最も濃く印字されます。
- フィルム巻き戻し時点での設定が有効となります。

◆[F16]シャッターボタン半押しでのピント調整方法を設定する

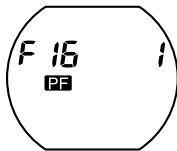
シャッターボタンを半押しした状態で、ピント合わせをするか、しないかを設定します。

●ファンクションNo.:[F16]

●設定番号:

[1]…ピント合わせをする

[2]…ピント合わせをしない

メモ

設定番号[2]に設定した場合は、AFボタンでピント合わせをしてください。シャッターボタンを半押ししてもピント合わせは行われません。また、AFボタンから指を離すとピントが合っていなくても撮影できてしまいますので、ピンボケにご注意ください。

◆[F17] Tv電子ダイヤルの設定方向を設定する

Tv電子ダイヤルの設定方向を時計回りと反時計回りのどちらで数値を進めるのかを設定します。

●ファンクションNo.:[F17]

●設定番号:

[1]…反時計回りに回すと数値を進める

[2]…時計回りに回すと数値を進める

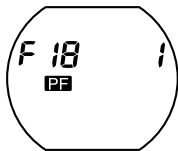
◆[F18] マウント指標ランプの点灯状態を設定する

レンズ取り外しボタンを押したときにマウント指標ランプを点灯するかどうかを設定します。☞P.16

●ファンクションNo.:[F18]

●設定番号:

[1]…点灯する

[2]…点灯しない

マウントアダプターKを使うときは、マウント指標ランプが点灯したままになりますので、設定番号[2]に設定してください。

付録

◆[F19] リモコンのレリーズ時間を設定する

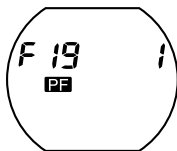
リモコンボタンを押したときに、3秒後にシャッターがきれるのか、すぐにきれるのかを設定します。

●ファンクションNo.:[F19]

●設定番号:

[1]…3秒後にシャッターがきれる

[2]…押した直後にきれる

メモ

リモコンを使用するには、別売りの「バッテリーグリップBG-10」が必要です。

各種レンズの使用について

本機と各種レンズを組み合わせたときに、使用できる機能について説明します。

	FAレンズ[KAF·KAF2]	Fレンズ[KAF]	Aレンズ[KA]	Mレンズ[K]	Sレンズ[P]
オートフォーカス					
レンズ単体使用	○	○	×	×	×
AFアダプター1.7×使用	–	–	○*1	○*1	×
マニュアルフォーカス					
FI表示の利用*2	○*3	○*3	○*3	○*3	×
マット面の利用	○	○	○	○	○
6点測距	○	○	×	×	×
パワーズーム	○*4	×	×	×	×
プログラム自動露出	○*5	○*5	○	×	×
絞り優先自動露出	○	○	○	○	○
シャッター優先自動露出	○*5	○*5	○	×	×
マニュアル露出	○	○	○	○	○
TTLオートストロボ撮影	○	○	○	○	○
分割測光(6分割)	○	○	○*6	×*7	×*7
絞りA位置以外の絞り目安表示	○	○	×	×	×

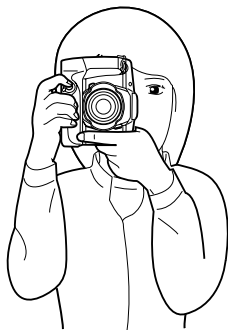
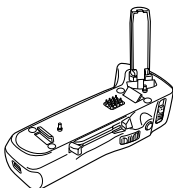
＊[　]内はマウント名です。マウント名については、レンズの使用説明書を参照してください。
＊1：レンズの開放値がF2.8より明るいレンズのみ(AFアダプターの説明書を参照)。
＊2：FIはフォーカスインジケーターの略。ファインダー内の合焦マークで、手動でピント合わせを行う。
＊3：レンズの開放F値がF5.6より明るいレンズのみ。
＊4：KAF2マウントレンズのみ。
＊5：F·FAソフト85mmF2.8または、FAソフト28mmF2.8を除く。
＊6：A50mmF1.2の場合、絞りA位置以外では中央重点測光になります。
＊7：分割測光を選択しても中央重点測光になります。

付録

専用アクセサリー(別売)について

本機には、次のような各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、各サービス窓口にお問い合わせください。

■ バッテリーグリップ　BG-10

MZ-S専用の単3電池を使用するためのバッテリーグリップ。別売りのリモコンによるリモコン撮影が可能。また、操作性を重視し、グリップに縦位置撮影のためのシャッターボタンを配備。

BG-10装着時は、このように構えることで、より手ぶれの少ない撮影ができます。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

●アルカリ電池を使用している場合

	フィルム本数(使用温度20℃)
一般撮影	約95本
ストロボ撮影(使用率50%)	約28本
ストロボ撮影(使用率100%)	約14本
バルブ露出時間	約18時間

●リチウム電池を使用している場合

	フィルム本数(使用温度20℃)	フィルム本数(−10℃)
一般撮影	約150本	約100本
ストロボ撮影(使用率50%)	約50本	約35本
ストロボ撮影(使用率100%)	約30本	約20本
バルブ露出時間	約25時間	約17時間

■ ケーブルスイッチ

ワンタッチケーブルスイッチCS-105/CS-130

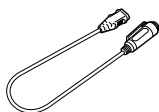
MZ-S専用のレリーズコードです。コードの長さにより CS-105(0.5m)とCS-130(3m)の2種類が用意されています。

レリーズタイマースイッチTS-110

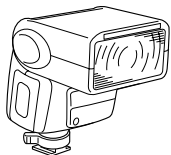
MZ-S専用のインターバルやタイマー機能を備えたレリーズコードです。

ケーブルスイッチアダプタCA-10

CS-105, CS-130, TS-110をケーブルスイッチFタイプのカメラに取り付けるためのアダプタ

付録

■ ストロボ関連

オートストロボAF360FGZ

ガイドナンバー36のオートストロボ。スレーブ機能、光量比制御モードや先幕･後幕シンクロ撮影などが可能。MZ-Sと組み合わせるとハイスピードシンクロ機能、ワイヤレス機能が可能。

オートストロボAF500FTZ

ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕･後幕シンクロ撮影などが可能。

オートストロボAF330FTZ

ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートストロボ。光量比制御モードや先幕･後幕シンクロ撮影などが可能。

マクロストロボAF140C

ガイドナンバー14の接写用ストロボ

オフカメラシュークリップ CL-10

AF360FGZなどをカメラから離して使用するときのセッティング用クリップ。

ホットシューアダプターFG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプターF

外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コード。

■ ファインダー/レンズ関連

マグニファイヤーFB

ファインダー中央部を拡大してみるアクセサリー。

レフコンバーターA

ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができできるアクセサリー。倍率は1倍と2倍に切り替えることができます。

取り付け時、カメラの裏ぶたの開閉を行うと、レフコンバーターAと接触することがあります。裏ぶた開閉時は、レフコンバーターAを外してください。

AFアダプター1.7×

オートフォーカス用でないF2.8より明るいレンズで、オートフォーカス撮影するためのアダプター。

フィルター

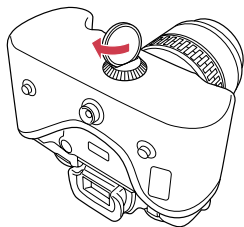
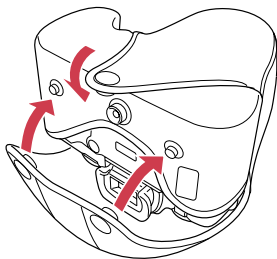
スカイライト・曇天用・UV・Y2・02・R2・円偏光があります。フィルター径は、49mm、52mm、58mm、67mm、77mmの5種類です。

メモ

- 「645レンズ用アダプターK」をボディーに着脱するときは、アダプターの固定ネジの位置によってボディに当る場合がありますので注意してください。当る場合は、固定ネジの位置を変えてから操作を行ってください。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使用するとオートフォーカスや露出の精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには、円偏光フィルターのご使用をお勧めします。
  また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。
- マウントアダプターK使用時は、マウント指標ランプが点灯したままになることがあります。ペンタックスファンクションNo.18の設定を[2]でお使いください。

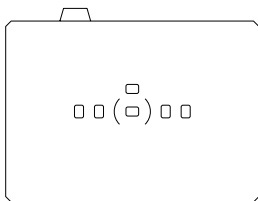
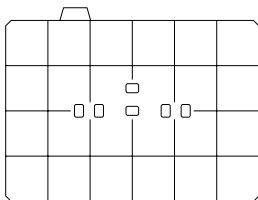
■ ソフトケース　CF-10

MZ-S専用のソフトケース。ソフトケースは、バックケース(底ぶた)とフロントケース(前ぶた)を組み合わせた物です。以下の説明にしたがって取り付けてください。

①バックケースの底にある取り付けネジを、コインなどを使用して固定します。

②フロントケースをバックケースに取り付けます。

フロントケースには、S、M、Lの3種類があります。使用するレンズに合わせてお選びください。

フォーカシングスクリーン／接写

次の種類が用意されています。

GF-60（AFフレームマット）一般撮影用（標準品）

GG-60（方眼マット）構図設定用（6mm間隔の方眼付）

オート接写リングKセット

1号、2号、3号のセット。
カメラとレンズの間に入れて使用する接写用アクセサリー。自動絞り、開放測光対応。

オートベローズAは、カメラに接触し、取り付けができませんので、ご使用いただけません。

こんなときは？

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

◆ 電子ダイヤルディスプレーに何も表示されない

Check1　電源がOFFになっている

対処　電源スイッチを[ON]位置に合わせてください（☞P.24）。

Check2　電池が入っていない／逆にセットされている

対処　電池のセット方向を確認して正しくセットしてください（☞P.15）。

Check3　電池が完全に消耗している

対処　新しい電池に交換してください（☞P.42）。

◆ シャッターがきれない

Check1　電源がOFFになっている

対処　電源スイッチを[ON]位置に合わせてください（☞P.24）。

Check2　電池が入っていない／逆にセットされている

対処　電池のセット方向を確認して正しくセットしてください（☞P.15）。

Check3　電池消耗マークが点滅している

対処　新しい電池に交換してください（☞P.42）。

Check4　露出補正ダイヤルが[D]位置/[PF]位置/[ISO]位置になっている

対処　露出補正ダイヤルを[D]位置/[PF]位置/[ISO]位置以外にしてください（☞P.68）。

Check5　内蔵ストロボが充電中

対処　充電が完了するまで待ってください（☞P.34）。

◆ ピントが合わない

Check1　ピントを合わせたいものがAFフレームの範囲に入っていない。

対処　写したいものをAFフレームに入れて撮影してください（☞P.29）。

Check2　撮影する距離が近すぎる

対処　写したいものから離れて撮影してください（☞P.75）。

Check3　オートフォーカスの苦手なもの（☞p.78）

対処　被写体とほぼ同じ距離のものにフォーカスロックしたり（☞p.83）、フォーカスモードレバーを[MF]位置に合わせ、マット面を利用して手動でピント調整をしてください（☞P.80）。

Check4　フォーカスモードレバーが[MF]位置になっている

対処　合焦マークやマット面を利用して手動でピント調整をしてください（☞P.79）。または、フォーカスモードレバーを[AF.S]位置にして撮影してください(☞p.75)。

Check5　フォーカスモードレバーが[AF.C]位置になっている

対処　[AF.C](コンティニアスモード)では、常に被写体にピントを合わせ続け、ピントが合っていない状態でもシャッターがきれます。(☞p.77)。

Check6　ピントを合わせたいものに測距点が合っていない

対処　ピントを合わせたい測距点位置を任意に設定してください（☞p.75）。

Check7　ピントを合わせたいものが測距点の範囲外

対処　いったん測距点の範囲内で写したいものにピントを合わせて固定(フォーカスロック)してください（☞p.83）。

◆ シャッターボタンを半押ししてもオートフォーカスが働かない

Chek1　ペンタックスファンクションNo.16で設定番号[2]が設定されている

対処　ペンタックスファンクションNo.16で設定番号[2]が設定されていると、シャッターボタン半押しでピント合わせは行いません。AFボタンを押してピントを調整してください。シャッターボタン半押しでピント合わせを行う場合は、ペンタックスファンクションNo.16で設定番号[1]を設定してください。

付録

◆ フィルムの撮影枚数が表示されない／進まない

Check 1　電子ダイヤルディスプレーに「E」が点滅している

対処　フィルムが正しくセットされていません。フィルムを入れ直してください（☞P.22）。

Check2　多重露出撮影が設定されている

対処　ドライブレバーが多重露出に設定されていると、同じコマに何度も写真を重ね続けます。他の撮影モードに設定してください（☞P.51）。

◆ フィルムが終わっても自動で巻き戻らない

Chek 1　ペンタックスファンクションNo.13で設定番号[2]が設定されている

対処　ペンタックスファンクションNo.13で設定番号[2]が設定されていると、フィルムを自動で巻き戻しません（☞p.125）。巻き戻しボタンを押して巻き戻してください。
フィルムが終わったときに自動で巻き戻す場合は、ペンタックスファンクションNo.13で設定番号[1]を設定してください。

◆ ファインダー内のシャッター速度や絞り値が点滅している

Check 1　プログラム自動露出に設定している場合

対処　写したいものが明るすぎたり暗すぎます。明るいときにはもう少し暗い場所へ、暗いときにはもう少し明るい場所へカメラを向けてください（☞P.61）。

Check2　シャッター優先自動露出に設定している場合（絞り値が点滅）

対処　写したいものが明るすぎたり暗すぎます。明るいときにはシャッター速度を速く、暗いときにはシャッター速度を遅くしてください（☞P.63）。

Check3　絞り優先自動露出に設定している場合（シャッター速度が点滅）

対処　写したいものが明るすぎたり暗すぎます。明るいときには絞り値を小絞り側（数字の大きいほう）へ、暗いときには絞り値を開放側（数字の小さいほう）へ設定してください（☞P.65）。

◆ 露出やシャッター速度が変更できない

Check1　[HOLD]レバーが右側にある

対処　[HOLD]レバーが右側にあると、Tv電子ダイヤルを回したり、Tvオートボタンを押しても、露出モードやシャッター速度は変更できません。[HOLD]レバーを左側にしてください(☞P.59)。

◆ 内蔵ストロボが発光しない

Check1　内蔵ストロボが充電中

対処　充電が完了するまで待ってください(☞P.34)。

Check2　電池消耗マークが点滅している

対処　新しい電池に交換してください(☞P.42)。

Check3　発光モードが[A](自動発光モード)に設定されている

対処　自動発光モードでは、写すものが明るい場合は発光しません。強制発光モードにすることで、明るい場合でも発光します(☞P.90)。

◆ 日付や撮影データの写し込みが薄い

Check1　日付や時刻の写し込みが薄い

対処　内蔵電池(リチウム電池CR2025)を交換してください(☞P.44)。

Check2　撮影データの印字が薄い

対処　ペンタックスファンクションNo.15で、印字濃度を調整してください(☞P.126)。

主な仕様

●型　式	TTLストロボ内蔵 マルチモードTTL自動露出　AE･AF35mm一眼レフカメラ
●画面サイズ	24×36mm
●使用フィルム	35mmフィルム[J135パトローネ入り] 35mmDXフィルム＝ISO25～5000、 DXでないフィルムはISO6～6400
●露出モード	プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出、 マニュアル露出、バルブ
●シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、 オートシャッター＝1/6000秒～30秒[無段階]、 マニュアルシャッター＝1/6000秒～30秒、バルブ、電磁レリーズ、 電源スイッチOFF位置でシャッターロック
●レンズマウント	ペンタックスバヨネットKAF2[マウントレンズ情報接点付Kマウント]、 マウント指標部照明機能付き
●使用レンズ	KAF2、KAFマウントレンズ、 KA、Kマウントレンズ[AFアダプター使用でAF可能]
●オートフォーカス機構	TTL位相差検出式6点測距（SAFOX Ⅶ）、 オートフォーカス作動輝度範囲Ev-1～18(ISO100 F1.4レンズ付き)、 フォーカスロック可能、フォーカスモード＝AF.S/AF.C[動体予測可]/MF、 測距点切り替え可能
●パワーズーム	KAF2マウントレンズとの組み合わせにより使用可能
●ファインダー	ペンタプリズムファインダー、 交換式ナチュラルブライトマットフォーカシングスクリーン、視野率92%、 倍率0.75倍[1.4/50mm･∞･-1m-1]、視度＝-2.5～+1.5 m-1]
●ファインダー内表示	フォーカス表示、[⬣]合焦＝点灯/合焦不能＝点滅、シャッター速度表示、 絞り表示、[ϟ]＝ストロボ情報、バーグラフ＝露出補正値、 マニュアル露出時のオーバー･アンダー表示、[✱]＝AEロック表示
●LCDパネル表示	[P]＝プログラム自動露出、[Tv]＝シャッター優先、[Av]＝絞り優先自動露出、 [M]＝マニュアル露出、フィルム感度＝6～6400、[ISO]＝フィルム感度設定、 シャッター速度、絞り値、[D]＝撮影データフィルム印字設定、 [o‐‐‐o]＝パトローネ･フィルム走行･巻き取り、[▭]＝電池消耗、 [ϟ]＝内蔵ストロボ充電完了、[ϟ]点滅＝ストロボお勧め/不適切レンズ警告、 [◉]＝赤目軽減機能、[A]＝ストロボ自動発光、[W]＝ワイヤレス発光モード、 [HS]＝ハイスピードシンクロモード、フィルム枚数＝0～39、 [PF]＝ペンタックスファンクション、[▪))]＝電子音、照明機能あり
●プレビュー	電子式[全露出モードで使用可能]
●セルフタイマー	電子制御式、始動はシャッターボタン、12秒/2秒（ミラーアップ機能あり）、 電子音の有無設定可能、作動後解除可能
●オートブラケット	適正･アンダー･オーバーの3コマ連続段階露出が可能(±1/2EV、±1EV)、 露出補正併用可、撮影順序およびコマ数は変更可能

●ミラー	クイックリターンミラー、ミラーアップ機能（2秒セルフ時可能）
●フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、 裏ぶたにフィルム情報窓付
●巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、 1コマ撮影・連続撮影[約2.5コマ/秒]、フィルム終了時自動巻き戻し、 フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示、多重露出可能、 途中巻き戻しボタンによる途中巻き戻し可能
●露出計・測光範囲	TTL開放分割測光（6分割）、測光範囲50mm F1.4 ISO100 EV0～21、 中央重点、スポット測光可能
●露出補正	±3段階[EV]（0.5段階[EV]ごと設定可能）
●AEロック	ボタン式（タイマー式20秒間）シャッターボタン半押しで継続
●撮影データの写し込み	フィルムの画面余白に写し込み 項目＝フィルム本数、フィルム感度、 印字濃度、露出モード、測光方式、シャッター速度、絞り値、露出補正値、 オートブラケット撮影の有無
●内蔵ストロボ	直列制御TTLストロボ、 ガイドナンバー12[ISO 100/m]24mmレンズをカバー、 同調速度1/180秒以下、光量比制御可能、ISO連動範囲＝25～800、 自動発光可能、赤目軽減機能
●シンクロ	ホットシュー[X接点専用ストロボ接点付き]専用ストロボ連動 ISO連動範囲＝25～800、同調速度1/180秒以下、専用ストロボ使用でハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ、P-TTLオート可能
●ペンタックスファンクション	19項目設定可能
●電源	3Vリチウム電池CR2　2個
●電池消耗警告	バッテリーマーク点灯[点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯]
●大きさ・質量[重さ]	136.5mm[幅]×95mm[高]×64mm[厚]×520g[ボディーのみ、電池別]
●付属品	ホットシューカバーFL、ワンタッチレリーズソケットキャップ、 カメラストラップFG、アイカップFL、ファインダーキャップ

データバック仕様

●機構	クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、 オートカレンダー[西暦2049年まで、閏年は自動修正]
●写し込み方法	7セグメント6桁ＬＣＤ、フィルム背面より写し込み
●表　示	データ表示窓にＬＣＤ表示、表示写し込み時－が2～3秒間点滅
●種　類	①年・月・日、 ②日・時・分、 ③-- -- --[データ写し込み無し]、 ④月・日・年、 ⑤日・月・年
●使用フィルム感度	ISO25～1600[感度自動セット]
●電源	CR2025[リチウム電池]
●発光回数	約5000回

付録

索引

た行

な行

は行

ま行

ら行

付録

お客様窓口のご案内

ペンタックス
お客様相談センター（弊社製品に関するお問い合わせ）

〒174-8639　東京都板橋区前野町2-36-9
営業時間　午前9:00〜午後6:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

0570-001313
市内通話料金でご使用いただけます。
携帯・PHSの方は下記番号をご利用ください。
☎ 03(3960)3200(代)　☎ 03(3960)0887　デジタルカメラ専用

ショールーム・写真展・修理受付

ペンタックスフォーラム　☎ 03(3348)2941(代)
〒163-0401　東京都新宿区西新宿2-1-1　新宿三井ビル1階(私書箱240号)
営業時間　午前10:30〜午後6:30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

修理受付

ペンタックス 札幌営業所お客様窓口　☎ 011(612)3231(代)
〒060-0010　札幌市中央区北10条西18-36　ペンタックス札幌ビル2階
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 仙台営業所お客様窓口　☎ 022(371)6663(代)
〒981-3133　仙台市泉区泉中央1-7-1　千代田生命泉中央駅ビル5階
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 名古屋営業所お客様窓口　☎ 052(962)5331(代)
〒461-0001　名古屋市東区泉1-19-8　ペンタックスビル3階
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 広島営業所お客様窓口　☎ 082(234)5681(代)
〒730-0851　広島市中区榎町2-15　榎町ビュロー3階
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックス 福岡営業所お客様窓口　☎ 092(281)6868(代)
〒810-0802　福岡市博多区中洲中島町3-8　パールビル2階
営業時間　午前9:00〜午後5:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

直送修理受付・修理に関するお問い合わせ

ペンタックスサービス㈱ 東日本修理センター　☎ 03(3975)4341㈹
〒175-0082　東京都板橋区高島平6-6-2　旭光学工業㈱流通センター内
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス㈱ 西日本修理センター　☎ 06(6271)7996㈹
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9　パールビル2階
営業時間　午前9：00～午後5：00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ホームページアドレス　http://www.pentax.co.jp/

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中[ご購入後1年間]は、保証書[販売店および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店、当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り(使用説明書記載以外の誤操作等)により生じた故障。
   - 当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理·改造·分解による故障。
   - 火災·天災·地変等による故障。
   - 保管上の不備(高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等)や手入れの不備(泥·砂·ホコリ·水かぶり·ショック等)による故障。
   - 保証書の添付のない場合。
   - 販売店名や購入年月日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外旅行をなさる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社のお客様相談センターまたは、お客様窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。[保証期間中のみ有効]国際保証書の書面に記載されている海外のサービス窓口にて修理を承ります。

旭 光 学 工 業 株 式 会 社
〒174-8639 東 京 都 板 橋 区 前 野 町 2-36-9
ペンタックス販売株式会社
〒100-0014 東 京 都 千 代 田 区 永 田 町 1-11-1

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーはペンタックス愛用者の写真クラブです。年４回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み、お問い合わせは下記のペンタックスファミリー事務局まで。
〒100-0014　東京都千代田区永田町 1-11-1　三宅坂ビル３階　TEL:03-3580-0336

＊仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
＊この使用説明書には再生紙を使用しています。

56564　　03-200203